

両学部生と一緒に学べる
科目ガイド

藝大

リベラルアーツ

ガイド

GEIDAI LIBERAL ARTS
GUIDE

2025



TOKYO GEIDAI

藝大

両学部生と一緒に学べる
科目ガイド

リベラルアーツ
ガイド

GEIDAI LIBERAL ARTS
GUIDE 2025

目次

藝大リベラルアーツガイド～両学部生と一緒に学べる科目ガイドの使い方

本ガイドでは幅広い知識や視野を身につけたり、藝大らしいさまざまな芸術や文化の基礎に触れ、両学部や院生と一緒に学びあう「教養」「共通」科目を担当する先生が、それぞれの授業のポイントを紹介します。

本ガイドに記載されている科目であっても、学生によっては、履修不可能な科目が含まれています。履修可能な科目かどうか、各科目の開催教室や単位数など、授業内容は本学 WEB サイト上にあるシラバスを参照してください。

◆履修に際しての注意事項

・科目によって履修対象が異なります。本ガイドに掲載されている科目の中には、美術学部生あるいは音楽学部生のみを履修対象として開講している科目もあります。

・本ガイドに掲載されている科目が教育課程表（カリキュラム表）のどの科目区分に分類されるかは、科・専攻によって異なります。

例）美術学部生にとっては「共通科目」となるが、音楽学部生にとっては「自由科目」（卒業・修了要件単位とならない科目）となる科目がある 等

・履修に際しては、各自が「履修案内（美術）／履修便覧（音楽）」「シラバス」「授業時間割表」等をよく検討し、責任を持って計画を立て、必要な単位を修得してください。不明点がある場合には教員室や教務係に問い合わせてください。

2025年3月時点の内容のため、以降に変更される場合があります。

芸術を修めるためには、それぞれが学び研鑽する専門分野だけでなく、専門以外にも関連する芸術分野や豊かに広がるさまざまなアートやそこにある文化を理解できる素養や、デジタルを代表とする新たな表現手段の獲得、そして、芸術そのものを成り立たせている社会や環境への理解が必要となります。

藝大には、このような多岐にわたる必要な学びに応えるため、ほかの大学と較べても豊富な科目が開講し、時代とともにアップデートを続けています。

専門だけではなく、世の中を探求するために必要な糧となる学びを「リベラルアーツ」といいます。本学では、ひとりひとりが表現することを通じて、社会の中でチャレンジするみなさんに向けて、科学や文明の広がりや深みの探求の入り口となる学びの体験から、それぞれの専門だけではない幅広い分野の芸術や創作、その思索やノウハウを獲得できる授業を開講しています。さらには、人工知能や仮想空間といったデジタルで拡張する表現や、社会の諸課題や芸術への実装といった、これからの時代で活躍するためのコンセプトや指針や、道具となる実践的なスキルを得られる機会となる授業も多数用意し、それぞれの分野の第一線になる先生から得ることができます。

あなたにとって、必要な学びを会得できるよう、本ガイドではそれぞれの授業を担当する先生が、授業を通じて学べること、学生に対して期待していることを、紹介しています。

探求したい、実装したい、「リベラルアーツ」の学びと会得に、みなさんが出合えることを期待しています。

東京藝術大学教養教育センター

「教養」「共通」科目の授業の多くは、学部をまたいで受講ができるようになっています。日常では、なかなか一緒になることがない、他の分野の学生、それも藝大生らしい多彩な面々と学ぶことで、知り合いができることが多くあります。

また、アートプロジェクトの参加など表現や研究だけではない現場の経験や、他分野の創作を異なる分野の学生と会得しあう機会があります。

分野を越えた縁が生まれる授業でもあるのです。

本ガイドの使い方	2
目次	3
教養教育センター	
0 初年次教育プログラム	6
1 先端知を識る 異分野横断オムニバス講座	7
ガイドよみもの 「先端知」を拓いた藝大卒業生より 平芳裕子	8
2 アーティストのためのダイバーシティ&インクルージョン入門	9
ガイドよみもの 在校生の先輩が語る藝大はじめ	10
3 キャリア設計演習	12

芸術情報センター	
4 映像演習Ⅰ 映画	13
5 映像演習Ⅱ アニメーション	
6 芸術情報概論 A・B	
7 コードとデザイン パーソナル・パーソナルコンピューターの作り方	14
8 芸術情報リテラシー概論 著作権、知的財産権、メタバース、NFT アート	
9 現代ゲーム概論	
10 人工知能と創作	15
11 メディアアート・プログラミングⅠ	
12 メディアアート・プログラミングⅡ	
13 イメージ演習 A	16
14 イメージ演習 B	
15 芸術情報演習Ⅰ	
16 芸術情報演習Ⅱ	17
17 アーカイブ概論	
18 芸術と情報	
19 情報メディア学	18
20 デジタル・サウンド演習	
21 メディア特論：アート+	
22 インタラクティブ・ミュージックⅠ	19
23 ゲーム制作演習Ⅰ・Ⅱ	

グローバルサポートセンター	
24 国際共修 A	20
25 国際共修 B	
26 日本の芸術・文化を英語で学ぶ（前期）（後期）	21

音楽学部	
27 英米文学Ⅰ・Ⅱ	22
28 音楽文化史Ⅰ・Ⅱ	
29 芸術文化環境論Ⅰ	
30 思想史Ⅰ・Ⅱ	23
31 心理学概説Ⅰ・Ⅱ	
32 美学Ⅰ・Ⅱ	
33 文化人類学Ⅰ・Ⅱ	24
34 歴史Ⅰ・Ⅱ	
35 パレエ史Ⅰ・Ⅱ	
36 芸術と社会 21世紀の社会が求める創造性とは（企業編） 集中講義	25
37 音楽療法Ⅰ	

38	音楽療法Ⅱ	
39	ドイツ文学Ⅰ・Ⅱ	26
40	フランス文学Ⅰ	
41	フランス文学Ⅱ	
42	舞台芸術広報概論 アーツのための広報の基本	27
43	ビデオプロダクション入門	
44	映像音響処理概説Ⅰ・Ⅱ	
45	音響作品創作研究Ⅰ・Ⅱ	28
46	電子工作創作表現Ⅰ・Ⅱ	
47	作り手のためのドラマツルギー概説Ⅰ・Ⅱ	
48	音響技術史	29
49	デジタルミュージック創作研究Ⅰ・Ⅱ	
50	楽器音響学Ⅰ・Ⅱ	
51	「カルチュラル・マッピング」とアートプロジェクトの分析法	30
52	音響心理研究法Ⅰ・Ⅱ	
53	空間音響研究Ⅰ・Ⅱ	
54	高臨場感音響設計概論Ⅰ・Ⅱ	31
55	声楽実技演習Ⅰ・Ⅱ	
56	DTP出版編集演習Ⅰ・Ⅱ	
57	ポピュラー音楽研究Ⅰ ボーカロイド音楽論	32
58	芸術運営論Ⅰ：著作権と文化・メディア契約	
59	芸術運営論Ⅰ：音楽マネジメントⅠ	
60	芸術運営論Ⅰ：音楽マネジメントⅡ	33
61	芸術運営論Ⅱ：経営学 集中講義	
62	芸術運営論Ⅱ：マーケティング 集中講義	
63	ジェンダー論Ⅰ・Ⅱ	34
64	日本音楽概論	
65	録音技法研究Ⅰ・Ⅱ	
66	音響学Ⅰ・Ⅱ	35
67	著作権概論Ⅰ・Ⅱ	
68	現代芸術概説	
69	ポップ論Ⅰ・Ⅱ	36
70	メディア・リテラシー	

演奏芸術センター

71	劇場技術論Ⅰ・Ⅱ	37
72	舞台芸術実践論Ⅰ・Ⅱ	
73	ホール音響概論 集中講義	
74	サウンドレコーディング基礎演習	38
75	「障がいとアーツ」研究	
76	社会哲学特講Ⅰ 日本戦後サブカルチャー論	

美術学部

77	社会学 集中講義	39
78	生物学Ⅰ・Ⅱ	
79	哲学Ⅰ・Ⅱ	
80	西洋建築史Ⅰ・Ⅱ	40
81	工芸理論Ⅰ・Ⅱ	
82	写真映像論	
83	写真史	41
84	写真表現演習Ⅰ（取手）	

85	映像演習Ⅰ・Ⅱ（取手）	
86	ドローイング演習（取手）	42
87	メディア概論Ⅰ・Ⅱ	
88	写真表現演習Ⅱ-A	
89	写真表現演習Ⅱ-B	43
90	美術解剖学-人とかたち-(前期)・(後期)	
91	空間造形演習Ⅰ	
92	空間造形演習Ⅱ	44
93	サウンド・アート概論Ⅰ・Ⅱ	
94	拡張するファッション論	
95	倫理学Ⅰ・Ⅱ	45
96	色彩学 集中講義	
97	デザイン概説Ⅰ・Ⅱ	
98	東洋美術史概説Ⅰ・Ⅱ	46
99	日本工芸史概説Ⅰ・Ⅱ	
100	建築概論Ⅰ・Ⅱ	
101	現代芸術論Ⅰ・Ⅱ（美学特講A・B）	47
102	西洋美術史概説Ⅰ	
103	西洋美術史概説Ⅱ	
104	日本美術史概説Ⅰ・Ⅱ	48
105	美学史概説Ⅰ・Ⅱ	

キュレーション教育研究センター

106	現代美術キュレーション概論	49
107	社会包摂のためのアートプロジェクト：音楽×身体表現×福祉Ⅰ（理論編）	
108	演習：アートプロジェクト したまちフィールドワーク	
109	展覧会設計演習	50
110	芸術環境創造論Ⅰ	

未来創造継承センター

111	アート&リサーチ演習「調査を用いるアート」と「アートを用いる調査」	
112	創造と継承とアーカイヴー Archives, Inheritance, and Creation of the Arts	51
	領域横断的思考実践ー Cross-disciplinary Platform	

芸術未来研究場

113	ケア×フィールドワーク実践演習	
114	DOOR プログラム実践演習	
115	ケア原論	52
116	人間形成学総論	
117	ダイバーシティ実践論	
118	ARTs × SDGs プラクティス	53
119	ドキュメンタリー映像演習	
120	ケア×ソーシャリー・エンゲイジド・アート実践論	
121	アクセス実践講座	54
122	美術鑑賞実践演習	
123	アートプロジェクト演習	

体育（美術学部）

124	東京藝術大学の体育授業	55
-----	-------------	----

教養教育センター企画プログラム

0

藝大一年生
初年次教育プログラム

有意義な学びはじめのためのスタートアップセミナー

△本プログラムは履修科目外のオンラインセミナーです

新たに藝大で学びはじめるみなさんへ。

大学生活のはじまりとは、これまで歩んできた人生とは全く異なる環境や過ごし方、学びに入ること。また、社会の一員として、藝大生として、自らのアイデンティティをつくり、世の中の一員として、かつ芸術という個性によって、より注目される人になることを意味します。

まずは、手続から入学、そして大学生生活の開始といった、人生が大きく変わる機会が短期間で押し寄せる日々、なにをどうしたらいいのか分からないことだらけだと思います。

このような新たなステージが、自身にとって意義あるスタートになりますよう、学びはじめ、ステップアップに資するノウハウを、学内の各エキスパートが映像を通じて伝授する、オンライン教材です。

新入生にとって、必要とされる局面にあわせて配信するプログラムですが、放映開始後はオンデマンドで観ることができますので、途中で知って見落とした方でも遡って観ることができます。

4月配信	第1回	入学最初の準備 怒涛のごとく進む入学時期、どのようにのぞんでいきましょう。 高卒、社会人からの在校生と経験を交えながら、学びはじめを考えます。
	第2回	藝大での学習や表現に必要なPCの活用法 学生生活には欠かせないPCを中心とした情報機器や学内システム、IT活用やSNSなど藝大生となった「日常」で気をつけたいいけないことを理解できるようにします。
	第3回	学内リソースの使い方 図書館や学生相談室、AMC(芸術情報センター)などの学内施設や、さまざまなプログラムなど、学生生活と学びを充実させる学内リソースの使い方を紹介します。
5月配信	第4回	健康管理、精神衛生、困りごと 健康管理やメンタルヘルス、学生生活や慣れない新生活での困りごとへの対応法を紹介します。
	第5回	ライティングの基礎 授業が本格化する中、大学で書くということ、そして作家や専門家として書いていくことの最初の基礎を理解します。
6月配信	第6回	ダイバシティ+インクルージョン 社会の一員として、表現者として、必須である、異なる者への配慮と留意、そのための人権、ハラスメント等に対する理解を深めます。
	第7回	法律知識とさまざまな権利、義務について 芸術家そして生活者として、留意しておきたい権利と法律、著作権、契約についての基礎理解。
7月配信	第8回	国際化：世界にはばたくための学内リソース 藝大から、藝大生のうちに、世界で学び、活動するためのさまざまな機会やリソースを紹介します。
	第9回	キャリアを考える 入学したてですが、大学生活はあっという間に過ぎ去ってしまいます。今から、将来のこと、進路のこと、キャリアのこと、考えていきましょう。社会人・プロに向けた、キャリアへの向かい方、在学中にもあるかもしれないあわてないための税知識の理解の入り口をつくります。

△内容は変更になる場合があります

配信方法
Google Classroom から配信を実施します
クラスコード **ktqppd4s**



教養教育センター開設・教養教育センター企画実施授業

教養教育センターでは、藝大らしいリベラルアーツを充実させるため、全学生を対象に特別な企画授業を開設しています。

本授業は、常に時代とともに在り続けなければならない表現者となる藝大生に対して、各分野の先端知を担い、新たな科学を切りひらいてきたフロントランナーの先生から直接学べる授業です。毎年、異なる先生をキュレーションして開催するこの授業、今年は、先端知として新しい理解が進む分野と実際に社会の発展にインパクトを与えている先生を揃えました。

1

先端知を識る 異分野横断オムニバス講座

教養教育センター開設科目

授業を行う先生	三谷純、藤田あき美、七丈直弘、南雲勇多、矢崎裕一、岡田智博
開講時期・時間	前期 水曜日 4時限

科学の発展は、文系理系問わず、私たちに様々な可能性と影響をもたらしています。審査万象を探求し解き明かす基礎研究のフロンティアから、これまで以上のパフォーマンスを実現する新たな素材や構造を生み出したり、巨大な計算手段として開発されたコンピュータを誰もが課題解決のために使いこなせたり、コミュニケーションを駆逐することで世の中の新たな変化を読み取ることで課題や困難を克服するブレイクスルーを見出したり、高度化・複雑化する文明を私たちの等身大なものにするのも、「より」先端知なのです。

芸術もまた、このようにアップデートされる様々な知性を駆逐することで、みなさん一人ひとりの手によって作られ、発展していきます。

本授業は、私たちに知の知的可能性を拡張できるように、今年は、数学、宇宙物理学、未来予測、国際理解教育、データビジュアライゼーションといった、各分野の科学をリードするパイオニアを講師に招いて行ないます。今回、特にポイントとして先端知として、社会実装や科学への理解に取り組む現在進行中の先生で構成しました。

まさに、新たな領域を切りひらいている最中の先生が、直接みなさんに講義することで、異なる分野の先端知にライブで触れられます。また、各授業とともに、実際にその場で手を動かしたりすることで、各先端知の理解を深められる学習もあります。授業を通じて、創作者としてより視野や知見を拡げ、新しい発想や取り組みにつなげられることを期待しています。

今年の授業ラインナップ

4月	地球上における困難な状況下において、課題解決に結びつく教育づくりと実践からの知識構築について。 南雲勇多 教育学者(開発教育・国際理解教育) 奈良国立大学機構国際戦略センター 講師
5月	宇宙を構成する諸現象への理解をさまざまなアプローチと引き出して解説、また、実を持った創造的知性で世界を生き抜く術を物理と身の回りの現象をつなげる理解を通じて養う。 藤田あき美(a.k.a BossB) 宇宙物理学者 信州大学 工学部 准教授
5月6月	データを集め、分析することで、導き出される未来予測のための科学的な手法を理解する。実際に研究アプローチを用いた、モデルづくりにも取り組む。 七丈直弘 未来予測研究 一橋大学 ソーシャルデータ・サイエンス研究科 教授
6月	数学が実際の現象とどのように作用していくかについて。その物理的体験として手を動かすことで理解していく。 三谷純 数学者 筑波大学 大学院 システム情報系情報工学科 教授
7月	ビッグデータを中心とするデータの可視化をどう実現するかについて、実際のデータ化が求められる局面での実践知を踏まえて、手法や考察に対する理解を深める。 矢崎裕一 データ可視化 デジタルハリウッド大学 特任准教授 △7月の矢崎先生の授業では、実際にデータ「可視化」を体験していきます。受講者は、自身のノートPCやタブレットを持参して授業に参加してください。

全講義にわたり進行役をします。表現を通じて社会の最前線に出るみなさんにとって、思索や実践の厚みにプラスとなる機会となることを期待しています。今年は、さまざまなかたちで世の中をつくる先端知・すごいことを理解できる先端知の現在進行形に取り組む先生を揃えました。また、聴いたり・観たりするだけの講義だけではなく、実際に手を動かしたりして、「つくる」に活かせる授業を各先生と一緒に考えていますので、さまざまな知のアプローチを会得しに来てください!

例年、受講生から好評の各先生と直接お話できる機会を今年も授業前後につくります。ぜひ、ご参加ください。

授業キュレーション 岡田智博 教養教育センター コーディネーター

芸術を通じて、社会を切りひらく可能性を持っている藝大生に、世界的な視野を涵養できるよう、グローバルサポートセンターとのリベラルアーツ企画授業を開設しています。これから社会で表現し、活躍するために必要とされる、「多様性=ダイバーシティ」「受容=インクルージョン」を第一線で活動する、多彩な講師から学びます。

2

アーティストのためのダイバーシティ&インクルージョン入門

教養教育センター開設科目

授業を行う先生 毛利嘉孝、江上賢一郎 他

開講時期・時間 後期 金曜日 6時限

「当たり前」って本当に当たり前？—多様性と芸術文化を考える

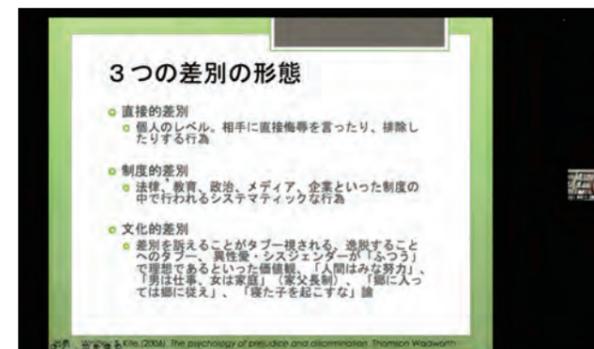
芸術や文化の世界では、国や言葉の壁を超え、さまざまな背景を持つ人々と出会う機会がたくさんあります。その中で、自分にとって「当たり前」だった価値観が、実は特定の環境で育まれたものにすぎず、他の人にとっては決して当たり前ではないと気づくこともあるでしょう。

でも、私たちが暮らす社会はどうでしょうか？ 現実には、多様な価値観を受け入れるどころか、違いを排除する仕組みやルールが今も残っています。たとえば、大学へ進学できること、母国語で自由に話せること、性別や国籍、肌の色を気にせず暮らせること——これらは誰にとっても「当たり前」ではありません。私たちは普段気づかないまま、見えない壁の中で生きているのです。

この授業では、「多様性(ダイバーシティ)」と「受容(インクルージョン)」をキーワードに、人種やジェンダー、障がい、言語、文化などの違いをどう理解し、共に生きていくかを考えます。それは単なる知識ではなく、すべての人が持つ「人権」に関わる大切な視点です。

授業では、「マジョリティとマイノリティ」「ジェンダーとセクシャリティ」「人種とエスニシティ」といったテーマを取り上げます。毎回多彩な講師によって授業を実施、専門家の理論を学びながら、アーティストの実践にも触れ、芸術文化がこうした問題をどう乗り越え、どんなメッセージを発信できるのかを探ります。理論だけでなく、実際にアーティストの話聞くことで、社会の「当たり前」に揺さぶりをかける新しい表現の可能性を感じられるはずです。

この授業で目指すのは「自分の表現や研究が、異なる背景を持つ人々にどう届くのか」を想像するために必要な知識や背景をまず学び、知ること。その上で、これまでの「当たり前」を問い直し、新しい視点を社会に投げかけること。芸術を通して世界を広げるための第一歩を一緒に学んで行きましょう！



出口真紀子先生(上智大学 教授)による「マジョリティとマイノリティ」をテーマにした講義



清水知子先生(大学院国際芸術創造研究科)による「ジェンダーとAI」をテーマにした講義

ガイドよみもの1

「先端知」を拓いた藝大卒業生より

平芳裕子

1995年 美術学部芸術学科卒業
神戸大学大学院人間発達環境学研究所教授

私が藝大の芸術学科で学んでいたのはもう30年も前のことになる。

不真面目な学生ではなかったはずだが、教養関連科目の何を履修したのかはもう記憶があやふやである。ただ覚えているのは、私は学芸員になるために専門的な勉強がしたくて芸術学科に入学したのに、なぜ一般教養的な授業を取らなければいけないのか、やや不満に思っていたことだ。

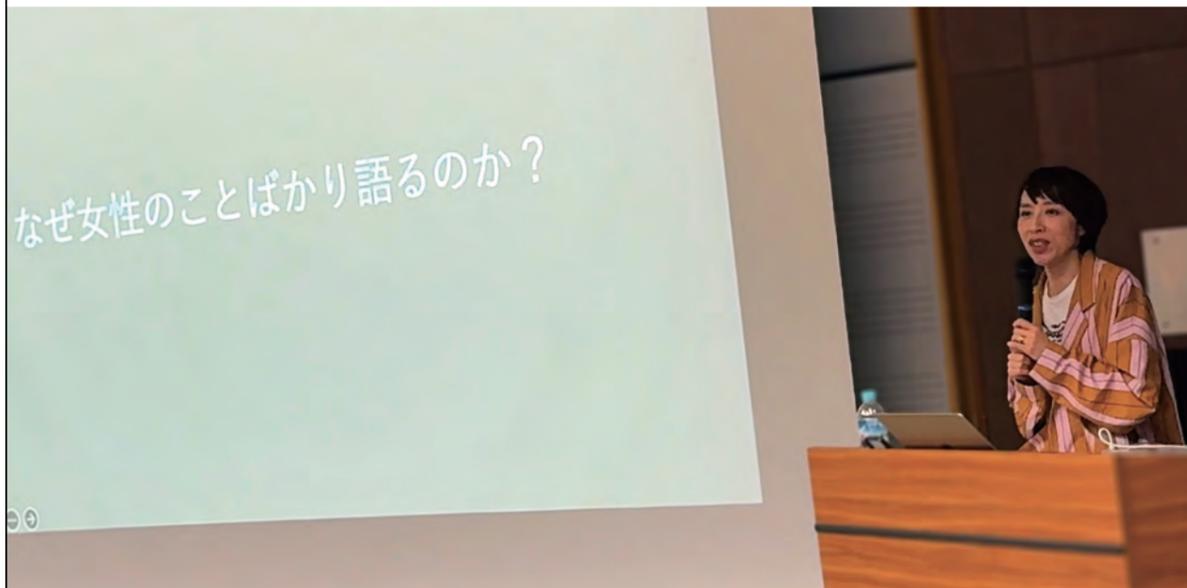
しかし、学年が上がるとして、専門性というものには教養ありきなのだということを理解するようになった。専門に閉じこもっていると、視野を広げることが難しい。専門性をつきつめたいと望むときこそ、リベラルアーツが役にたつ。

そして昨年、私は藝大に戻ってきた。学生ではなく教員として。ふだんの私は、神戸大学でファッション文化について教えているが、「先端知を識る 異分野横断オムニバス講座」にお招きいただき、懐かしの教室で講義を行った。

内容は、先ごろ(2024年)に出版した『東大ファッション論集中講義』(ちくまプリマー新書)を3回の授業に凝縮したものだ。私たちはみな服を着て生活しているけれども、学問的な対象としてはあまり認められてこなかったのが「ファッション」だ。アートとも密接な関わりをもつが、しばしばアートと別物扱いされてきたのも「ファッション」である。

そんな気づきを得ることができたのも、学生時代に専門の外に目を向けて、幅広く学んだことがきっかけであった。「なんでファッションは女性のものが多いの？」と考え始め、結局ファッションについて長く研究することとなり、大学の教員になった。

私の講義を聞いてくれた藝大の学生が、将来ファッションの専門家になることはないだろう。授業の内容など、忘れてしまうかもしれない。しかしそれでいい。講義に参加して、新しい世界に触れることで得られたちょっとした感覚や考察こそが重要なのだ。そういったものが、創造の糧となるはずだから。



2024年の「先端知を識る 異分野横断オムニバス講座」での平芳先生

ガイドよみもの2 先輩が語る藝大はじめ

一年生にとっては、まさに本ガイドをとっている時期は、決まってから入学、そして大学生活のはじまりまで、はじめての経験を瞬間に邁進していることでしょう。
初めてだらけの藝大で、どのようにこれからの学びを組み立てていったらと不安なことだらけだと思います。そこで、在校生の先輩より、その頃の振り返りと、おさえておいた方がいいことを実際の経験より語ってもらいました。

話し手: カニササレアヤコさん	音楽学部邦楽科雅楽専攻4年生
話し手: かねこもえさん	美術学部絵画科油画専攻4年生
聞き手: 岡田智博	教養教育センター コーディネーター(音楽研究科音楽文化芸術環境創造分野 博士)

カニササレ：音楽学部邦楽科雅楽専攻学部4年のカニササレアヤコです。藝大に入る前からこの名前でお笑い芸人をしつつ、芸術分野ではない大学を出た後、ロボットエンジニアとしてペッパーくんのアプリケーションの開発をしたり、音楽活動などをしていました。

かねこ：美術学部油画専攻学部4年のかねこもえと申します。私の方は高校からそのまま藝大に入りまして、実家は大阪なんですけど、そのまま上京して入りました。それまで東京に住んだことは一度もなかったのですが、3月中旬に合格が決まってから急いで家を探して、借りて、新1年生に対してのオリエンテーションがあるその日の前日に到着しました。

岡田：決まってひと月もたたないうちに、入学の時を迎えるわけなんですけれど、最初、何か準備したこととかありましたか？

カニササレ：入試が終わって決まって、とにかくなにも分らないうちに、入学の時を迎えたのですが、本当に藝大に入っの生活っていうのが想像できなかったの、先輩に聞いたりしました。

私は仕事をしながら通うっていう選択肢を取ったので、何かどのくらいの頻度であるのか、週何回大学に行っているのかとか、そういうのを聞いて、仕事は週何回ぐらいできそうかなどということ、組み立ててました。

一回、前に大学出てるんですけど、その大学生活の2・3倍は忙しかったです。スケジューリングが難しく、入学してみないとレッスンは何曜日の何時になるのかも分からない、そういう不確定要素がすごく多かった。だから社会人として、勤務先に理解しておいてもらうっていうのも重要だし、結構難しかったです。

思ったより仕事が入れられなかったです。もうちょっと稼いで、学費を払おうと思ってたのですが、学生生活が忙しくて全然働けなくてすごい貧乏になっちゃって、最初の1年間が結構しんどかったです。

かねこ：私はそのまま上京して、他の美術の同期とは違って、先輩とのツテが一切なくて、そこで話を聞けなかったの、とりあえず、助手さんや大学の方や、入学していきなりできた友達とかと何とか話しながら、どう授業を取ったらいいのか、どれぐらい休みを作ったら楽かとかという最初の設計をしながら、とりあえず最初のひとり暮らしとして、東京に慣れようと思いました。いきなりバイト探してとかより余裕とかもなく、とりあえず一人暮らしと状況に慣れることをしていました。

岡田：そして、入学となるのですが。

カニササレ：入学時に配られた資料をとにかく、読み込んでいかないといけない。

かねこ：美術学部ではガイダンスがあるのですが、詳しくはそれぞれの資料をみてくださいということになる。わからないことがあったら聞いてくださいということになるのですが、私も自分で読み込むことが重要だと思います。

カニササレ：学内に使える設備や制度があるのに、気づいたのが3年生になってからということもありました。

あと、SNSで藝大生をみつけて相談したりもしました。調べると、プロフィールに書いてある人が出てくるので、連絡したりしました。本当に入学前後すごい不安だったという記憶は共通なので、結構コツとして教えてあげたいみたいなものがあるようです。

かねこ：全く新しいのの一つ一つが重要なので、とりあえず同期で友達ついたり、先輩と交流するとかということに早く取り掛かりました。カニササレさんが話したように、SNSで入学前とかだと特にハッシュタグ春から芸大とかタグで何かを書くツイートとかしてる人が多いので、その人と相互フォローになってこう何か情報を集めていくみたいなのが大事だったりしました。

どちらからというと、写真をあげるInstagramよりも、Twitter(X)やBlueskyが役にたった。

岡田：最初の1週間で特に注意しないといけないこととかありますか？

カニササレ：奨学金や授業料免除の申請がとて速くて、1年生の時にそれを知らなくて、後悔したことがありました。あと、もう本当に授業の情報収集が重要。

岡田：奨学金や授業料免除の関係は、用意しないといけない書類もあるので、とても重要だけど、はやく知って動かないといけません。

また、授業を履修していくわけですが、とにかく自分で組み立てていけない状況かつ藝大特有の複雑な取り方をどのように把握して取組んでいきましたか。

カニササレ：私はいろんな種類のレッスンが多くあるので、それをまず時間割で埋めていきました。それに1・2週間かかるんですよ。全部の先生に会う。会ってレッスンの時間を埋めて、それ以外の空き時間で受けれる授業を探していくみたいな感じ。そして、時間割の一覧があるので、それを見て、空いてるコマのところ面白そうな授業を見つけて取ったのですが、今思

えば自分でやみくもに探すより、先輩に聞いて面白いものを教えてもらったりとかした方が良かったと思います。

芸大って本当に魅力的な授業が多すぎて、本当に密度の濃い時間割を作っておかないと本当にもったいないので、自分にとって価値のある授業で埋められてたらすごくいい4年間になるんじゃないかなど。

かねこ：美術は午前中が必修の時間になっていて、他の授業取れないのです。そこで、午後に何の授業を取るのかを決めるっていうことになると思うんですが、何か個人的に最初にやっておいた方がいいと思うのは、教職を取るか、あと学芸員資格を取るか、どっちも取らないか、どっちも取るかっていうのをどうするかを自分の中で決めておくこと。

教職と学芸員を取る場合は、もう最初にそのための授業を調べて、それに必修が入り。残りの空きで自分の取りたい授業を取るみたいなイメージです。

授業を選択するツールとして、履修案内(美術学部)※音楽学部は履修便覧、シラバスとリベラルアーツガイドがあって3つに情報が分散されている状態です。

必要単位が何単位、卒業までに要するのかみたいな、すごく基本的なルールのことは、美術の方では履修案内、音楽の方は名前が変わって履修便覧に記載されています。

オンラインでアクセスするシラバスには、評価基準だったり、出席何パーセントで判断しますとか、毎週テストがありますとか、あとこの授業は院生向けですとか、学部生向けですみたいな情報も書いてたりします。

3つ目がこのリベラルアーツガイドで、(選択科目に限られるのですが)授業の中でだいたいどういうことを教えてくれるのかとか、何かこういう現代アートの誰々先生が来て教えてくれますとか、そういった授業の雰囲気みたいなのが書いてあります。

岡田：このリベラルアーツガイドは、いわゆる音楽と美術の両学部の学生が選択できる「共通科目」的なものを紹介するというガイドですが、そういう専門外の科目を取って、何か自分にとってプラスになったこととか、もしくはそういう科目をどうやって選んだとかっていうことがありましたか？

カニササレ：よかったことは、圧倒的に自分の専門外の人とつながりができたことで、雅楽専攻なんですけど、それ以外の専攻の人とかと関わりができたことは、本当に自分が1年生の時に思ってた以上にすごくいいことで、もうこれから卒業して社会に出てきても、多分この関係が生きてくると思うのです。結構英語の授業で出会えたりとか、授業ではないのですが藝祭に関わったりすると結構いつながりができたと思うので、それをやっておいてよかったと思います。

かねこ：私は結構、他の音楽の授業の方にも手を出したりして、舞台上でダンスする授業をとったりしたのですが、何かそれでよかったなって思うのは、本当に藝大って芸術の大学なので、音楽と美術の人が両方いる環境なのですよ。

それが本当にいい環境だなんて個人的には思ってた。やっぱ自分の専門しかしないからって最初の頃は思ってたけど、1ヶ月もすれば全然考え方が変わってくるだろうし、年単位でいうと、もう数年経ったら全然自分がやらないと思ってたことに手を出せたりするので、そういった面で最初にいろいろな授業をとって自分の中で選択肢を増やしておくっていうのは本当に大事だと思います。

岡田：最初に大学生活に臨むうえで気をつけた方がいいことはありますか？

カニササレ：そうですね。藝大の授業って結構準備が大変で、私の話だとそのレッスンのために予習復習が必要で、一つのコマを受けるのにその2・3倍も授業にかける時間がかかります。その練習時間を考えて確保しておかないと、もう潰れてしまうっていうことがあります。ちょっとこう、練習の分のコマを自分に空けておくとかも、結構特に音楽学部では重要かと思います。

かねこ：美術の場合、学期最初の1・2週間の期間は抽選になる人気の授業が結構非常に多いので、抽選でこの授業が取れるかどうかによって、後々他の授業の組み方が決まるというのがあって、その調整でバタバタしてたりもしました。でも、履修しない時間を作っておいた方が、心が助かります。この日は1日休みとか、この日はもう絶対午後だけという日を作っておかないと本当にしんどいです。

1年生の時それに失敗しました。取りたいことがありすぎて、もう詰め込みすぎて毎日行ってたけど、もう大変でちょっと体力が続かなかった。

岡田：最後に、これから入ってくる学生に対して、まずはまずはどうしていったらいいのかをまとめてひとことお願いします。

カニササレ：まずはそう気負わず周りの人に聞くこと。大学職員さんに聞いたら、結構親切に教えてくれるし、藝大の人々は、わりとこう助けてあげたいみたいな気持ちがあると思うんです。高校を出たてで、大学1年生で結構、人に話しかけるのが緊張するとか多いと思うんですけど、一回尋ねてみるとすごい優しく教えてくれるので、周りの大人とか先輩とかに聞いてみるといいです。

かねこ：何か本当にそういうことすごい大事だと思います。あと、何かの何か受けたい授業をとりあえず最初の1週間はお試し期間みたいな感じで、受けたい授業をとりあえず受けてみる。まずどんな授業かを体感して、そこからやっぱこの授業を取ろう、この授業は来年でいいよみたいなものを決めていったりなど、していった方がいいです。

岡田：ありがとうございました。



3

キャリア設計演習

教養教育センター開設科目

授業を行う先生	富塚絵美
開講時期・時間	前期 火曜日 5時限

社会の中でアートを実践し続けるために、あるいはアートと共に人生を歩み続けるためには、創作や演奏などの技術以外にさまざまな社会人基礎力や運営力が必要になります。

キャリア設計演習では、以下の4つの項目を学びます。



(1) 自己分析と自己PR力

自己分析とは「自分はどうありたいのか」「どういう人生を生きたいのか」ということを明らかにするために自分のことを深く知るプロセスです。そして、自分のことを知らない人に対して「私にはこんな特徴があり、こんなことを考えている」ということを伝える力を養います。

(2) 社会人基礎力・ポータブルスキル

社会人基礎力として、どの業界に進んでも必要になるポータブルスキルを学びます。ポータブルスキルとは、どんな環境においても活かすことができる仕事の仕方や人との関わり方についてのコミュニケーションスキルのことです。

(3) プロジェクトマネジメント力

自分のやりたいことを企画書にし、それを実践するための運営方法について学びます。アートの事業における成果や評価について考え、活動を継続するためのレジリエンス力を鍛えます。

(4) 「アートとお金」についての理解

アートとお金の関係に注目しながら「アート」が成立した背景や公共的な文化支援、アートの市場や経営事情などについて理解を深めることで、自身の進路について資金面のことも踏まえて明確にしていきます。

以上のことを学ぶことで、卒業後の芸術活動について具体的に想像し、自分の望む環境を手にするためのより具体的な一歩を踏み出す準備をします。

アートキャリア・オフィス

アートキャリア・オフィスは、現役学生はもちろんですが、卒業生も対象にしています。

◎個別の進路相談（就職含む進路全般）

個々の特性や状況に合わせた個別の進路相談をオンラインと対面の両方で行なっています。

→ 詳細・予約については以下をご覧ください。

https://www.geidai.ac.jp/life/job/job_fairs

◎芸術家支援プログラムについて

- 社会人を含めどなたでも参加できる交流サロンや、素朴な疑問に答えられる気軽なオンライン・サロンを毎月開催しています。
- コンサートや個展、アウトリーチプログラムやワークショップなどの企画・運営・広報などが学べる「小さな本番実践演習」や、アートとお金の知識と社会人としてのポータブルスキルを学べる「キャリア設計演習」なども開講していますので、ぜひご参加ください。
- 進路に迷っている方はまず、以下ウェブサイトより卒業後の歩みがわかる「卒業生インタビュー動画」やコラムなどを参考にしてください。

プログラムの詳細についてはウェブサイトをご覧ください。



アートキャリア・オフィス公式ウェブサイト
<https://csupport.geidai.ac.jp/>

4

映像演習Ⅰ 映画

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生	長尾寛幸、加藤直樹
開講時期・時間	前期 月曜日 3時限

現在のあらゆる芸術表現において、映像は「芸術の記録装置」という存在を超えて、「芸術表現の一部」としても、あるいは「芸術表現そのもの」としての役割をも果たすようになりました。

この授業では「20世紀の映像表現」を牽引した「映画の制作手法」を学ぶことから、「21世紀の映像表現の可能性」を考えていきます。

授業内容は、

- ゲスト講師による「映画の制作手法」についての講義（監督、脚本、撮影照明、美術、編集、サウンドデザインについて）
- 芸術情報センター所有のカメラ、編集ソフト（Adobe Premiere）を使った演習

を二本柱とし、最終的に数分間の短編映画制作を行うことで、映像制作の実践的知識と技術の習得を目指します。

5

映像演習Ⅱ アニメーション

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生	布山タルト、山村浩二、牧奈歩美、伊藤有杏、岡本美津子
開講時期・時間	後期 水曜日 5時限

アニメーションはダイナミックにその形を変えながら様々な領域へと浸透する大きな可能性を持った表現です。本授業ではその可能性と多様性、それを基礎づける思考や技術、社会とのつながり等について、異なる専門性を持つ教員陣がオムニバス形式で紹介していきます。

授業内では、歴史や地域を横断する多数のアニメーション作品を紹介するとともに、一部、ワークショップ形式の演習なども交えながら、アニメーション表現を俯瞰的に理解できます。

本授業を入り口として、みなさん自身の制作や研究の実践に積極的にアニメーションを取り入れて深めてほしいと考えています。

6

芸術情報概論A・B

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生	中尾根美沙子、井上愉可里、望月玲奈
開講時期・時間	前期（A）・後期（B） 金曜日 5時限

教育現場はもちろん、社会でアートを活用したワークショップが求められています。そのワークショップの理論と実践が学べる授業です。

ワークショップの作り手として意味と仕組みを説明できることや、ワークショップを実際に作る際の基本的な手順などを提供します。

ワークショップを実際に企画・運営することを想定している人や、学校の授業でワークショップ型の授業を多く取り入れたいと思っている教職志望の人にも役に立つ授業なので、自分でやることを想定しながら受講すると大きな成果が上がります。

7	コードとデザイン パーソナル・パーソナルコンピューターの作り方 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	松浦知也
	開講時期・時間	前期 金曜日 4・5時限
<p>この授業では、コンピューターを積極的に制作に取り入れるための様々な考え方について、実践を通じて学びます。</p> <p>今日、映像をつくるにしても、音楽をつくるにしても、もはやコンピューターを使わずに制作を完結させることの方が大変です。</p> <p>しかし、コンピューターの世界は本来マウスやキーボード、ディスプレイに閉じたものではありません。電子工作で光やモーター、スイッチなど様々な入出力を扱ったり、デジタルファブリケーション機器を用いてデータと物質を相互に変換できるようになれば、現実世界の様々な要素で遊べるようになります。</p> <p>こうした実践を通じて表現の引き出しを増やしつつ、テクノロジーを主体的に使えるようになっていきたいと思います。</p>		

8	芸術情報リテラシー概論 著作権、知的財産権、メタバース、NFT アート 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	我妻潤子
	開講時期・時間	後期 水曜日 4時限
<p>「芸術リテラシー」は芸術作品から読み解き、自分の言葉でその作品を語るができる能力といわれています。</p> <p>「芸術情報リテラシー」は芸術作品が持つ知的財産権や権利背景などを読み解き、知的財産という視点をもって、自身の言葉で作品を語るができる能力と考えています。</p> <p>アーティストやクリエイターという創作者が知的財産という視点を持つことは、自身で作品の価値づけをする際や、新しいメディアが出現した際に臨機応変に対応する力が身につくことだと思います。技術的発展が著しい今だからこそ、知的財産権を「知る」のではなく「いかに使う」のかを、授業を通して学習していきます。</p>		

9	現代ゲーム概論 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	Jini
	開講時期・時間	後期 月曜日 4時限
<p>わたしたちが、一度は親しんだであろうビデオゲームは、今もっともポップで、ユニバーサルで、ポリティカルな芸術の一つとなり、世界中の才能によってさまざまな形で挑戦・受容されています。</p> <p>この授業ではビデオゲームの中でも、特に21世紀におけるビデオゲームを1本ずつ批評的に解釈しながら、それぞれ文化・産業・社会との関連を通じ、この確立されて間もない芸術を最前線で理解していきます。</p> <p>ビデオゲームを遊んだり、作ったりする人はもちろん、特に現代のインフラストラクチャーやテクノロジーの応用や、相互にインタラクティブ可能な表現に関心のある人も、ぜひ受講してみてください。</p>		

10	人工知能と創作 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	田所淳、森山朋絵
	開講時期・時間	後期 金曜日 3時限
<p>急速に発展するAI技術が、アート、デザイン、音楽をはじめとする人間の創造活動に及ぼす影響と、その可能性について探求します。AIは、もはや単なるツールではなく、創作のパートナーとしての側面を強く持ち始めています。本講義では、AIに関する基礎理論から実践的な応用まで幅広く網羅し、受講生がAIを駆使して独自の創造的なプロジェクトを立ち上げ、完成させることを目標とします。</p> <p>講義では、Google Teachable Machine を用いた機械学習の体験から始め、ChatGPT 等の大規模言語モデルの進化の歴史を学びます。さらに、人工知能と創作の歴史について紹介するとともに、画像・動画・音楽生成AI、プログラミング支援AIなど、具体的なAIツールの活用方法を習得します。生成AIを用いた最新の様々な作品を紹介し、受講生の自由な発想に基づくプロジェクト立案を支援します。最終成果として、受講生による作品の展覧会を企画・開催します。</p> <p>本講義は、AI技術の習得のみならず、AIと人間の創造性の関係性についての深い考察を促し、新たな表現の可能性を探求する力を養うことを目指します。</p>		

11	メディアアート・プログラミングI 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	田所淳、森山朋絵
	開講時期・時間	前期 金曜日 3時限
<p>現代のメディアアート制作に不可欠なプログラミング技術を習得し、実践的な作品制作を通してその応用力を高めることを目指します。ビジュアルプログラミング環境「TouchDesigner」を活用し、インタラクティブな表現やジェネラティブなビジュアル生成など、高度なメディアアート作品の制作に必要なプログラミングスキルを体系的に学びます。</p> <p>講義と並行して、受講生は自身の関心に基づいたテーマ・コンセプトを設定し、個人制作に取り組みます。演習内では、展覧会の企画・運営に関する実践的な知識も提供し、作品の立案から設営、最終発表、講評会までの一連のプロセスを体験します。これにより、プログラミング技術だけでなく、企画力、展示実装技術、批評的思考力を養います。</p> <p>本授業では、プログラミングを単なる技術としてではなく、創造的な表現のための「道具」として捉え、その可能性を最大限に引き出すことを目指します。開発環境を使いこなし、自身のアイデアを具現化する力を身につけることで、将来メディアアーティストとして、あるいはメディア表現を活用する多様な分野で活躍するための確固たる基盤を築くことができるでしょう。</p>		

12	メディアアート・プログラミングII 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	岡村浩志
	開講時期・時間	後期 金曜日 4時限
<p>本授業では、いくつかのプログラミング言語に触れ、その歴史や特性を理解し、コンピューターの双方向性、リアルタイム性、偶然性を活かした表現の可能性を探ります。</p> <p>前半は、コンピューターの仕組みや原理を学び、中盤は、プログラムでグラフィックの描画や音響処理を試し、後半は、学習した内容を組み合わせた課題制作を行います。</p>		

13	イメージ演習 A		美術学部開設科目
	授業を行う先生	沼倉真理、岩崎広大	
	開講時期・時間	前期 水曜日 4・5時限	
<p>デジタル技術の進歩により、様々なイメージの獲得が可能になりました。そのアウトプットとして、様々な媒体で3DCGを用いた表現を見ることも年々増えています。</p> <p>本授業では、AMCにある3Dスキャナーを中心に今日可能になった様々なイメージの収集方法とその活用方法を演習形式で学びます。身の回りの物体や環境をただ美しく3Dデータ化するだけでなく、積極的に3Dデータとして抽出、再構成し、そこから語り得る物語や表現の可能性を拡張することを目指します。また、課題制作やグループワークを通じて、3Dスキャンに伴う機器やソフトウェアの扱い方をはじめ、収集した3Dイメージを最終的なビジュアルアウトプットにつなげるためのAR技術等の習得を目指します。</p> <p>本演習では、芸術情報センターの機器を使用します。3DCGやゲームの制作経験は問いませんが、コンピュータの基礎的な操作が出来ることを履修条件とします。</p>			

14	イメージ演習 B		美術学部開設科目
	授業を行う先生	秋田亮平	
	開講時期・時間	後期 火曜日 4・5時限	
<p>本授業では、RealityCaptureというソフトを用いて、フォトグラメトリという複数枚の画像から高詳細な3Dデータを生成する方法を学びます。後半では、3Dデータを活用する方法として、メタバースプラットフォームでの公開やデジタルファブリケーションによるアウトプットを体験します。最終的には自分の興味のある方法で、3Dデータを使った作品を制作してもらいます。</p> <p>授業は、芸術情報センター演習室にて対面で行われます。使用するPCの関係上、少人数で行うため、応募者多数の場合は抽選となります。抽選申し込み方法は初回の授業にて行うので、希望者は必ず初回授業オリエンテーションを出席するようにしてください。</p>			

15	芸術情報演習 I		芸術情報センター開設科目
	授業を行う先生	松川祐子	
	開講時期・時間	前期 火曜日 3時限	
<p>Adobe InDesign を使っての、紙メディア制作演習です。</p> <p>この授業では、画像やフォントなどのデジタルデータや、印刷物などについての一連の知識と、InDesignの操作スキルを習得し、名刺や冊子などの紙メディアの制作ができるようになることを目指します。</p> <p>前半で、基礎知識の講義とハンズオンを並行して行い、名刺などの小課題を通して制作の基礎を身につけてもらいます。後半で、その応用として、冊子制作を行います。その制作を通して、メディアのテーマ設定・コンテンツ制作・レイアウト・出力・製本まで一通り経験してもらいます。</p> <p>この授業を通して、みなさんそれぞれの創作活動に必要なツール（名刺やDM、ポートフォリオなど）が、効果的に制作できるようになり、そのことで活動の幅が広がることを期待しています。</p>			

16	芸術情報演習 II		芸術情報センター開設科目
	授業を行う先生	加藤大直	
	開講時期・時間	前期 火曜日 5時限	
<p>ビジュアル表現、アニメーション、プロダクト開発、建築に至るまで幅広く扱われている3D技術を習得します。</p> <p>どの分野にも対応できるように、前半部では3Dの基礎概念と技術を学び、後半では各分野に分けた技法の習得、制作を開始します。</p> <p>主な使用ソフトは、CADであるFusion360と総合3DソフトウェアMayaですが、各受講生によってソフトウェアをプラスする場合もあり、昨今の様々なCAD、3Dにおける技術ニーズに対応できる授業です。</p> <p>基礎から始め、芸術情報センターの3Dプリンターやレーザーカッターを利用しながら、最終的に製品プロトタイプと3Dとしてメディアに実装できるレベルまで習得します。</p>			

17	アーカイブ概論		芸術情報センター開設科目
	授業を行う先生	上崎千	
	開講時期・時間	前期 水曜日 3時限	
<p>アーカイブとは何か。いかにしてアーカイブは可能となるのか。アーカイブは何と異なり、何とどう似ているのか。システムとしての言語（言語化の諸可能性）と物理的なマテリアルの集成（corpus）とのあいだで実現されるカルトグラフィを、芸術学の範疇において捉え直します。</p> <p>芸術を構成している様々な事象〈アーカイブ〉に向けての問いを投げかける本授業の射程には、アーカイブという知の在り方そのものを駆動させている技術への関心が含まれています。</p> <p>本授業では、アーカイブ理論、建築学、情報学を専門とする3人の教員の視点から、アーカイブをめぐる様々な問いと「芸術作品とは何か」という根源的な問いとの接続を、講義・講読・討論を通して試みていきます。</p>			

18	芸術と情報		芸術情報センター開設科目
	授業を行う先生	桐山孝司	
	開講時期・時間	後期 水曜日 5時限	
<p>芸術と情報の関わりについて考察し、創作活動を行っていく上で必要な情報についての理解を深めます。またAIや暗号など、現代社会を見えないところで動かしている情報技術のしくみにも注目します。</p> <p>講義の中では、観ておくべき古典的な映像作品に触れる機会も設けます。</p> <p>一部の回では大学院映像研究科ゲームコースとの連携により、スクウェア・エニックスのクリエイターによる講義をアーカイブ映像で行います。</p>			

19	情報メディア学 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	嘉村哲郎、中村美恵子
	開講時期・時間	前期 月曜日 4時限
<p>私たちの身の回りにある様々な情報ツールの利用方法について学びます。メールやクラウドの利用など、基礎的な内容から専門的な内容まで幅広く解説します。</p> <p>現代社会において誰もが知っておくべき情報リテラシーとして、Microsoft Office の利用方法については基礎から応用まで、実際に機器を操作しながら身につけていきます。また、インターネットを利用する上で必須の知識となっている、情報セキュリティや著作権についても学びます。</p> <p>各回において、実習形式、講義形式を取ります。課題が出される場合もあります。</p> <p>高度化された現代の情報社会において情報機器を扱う上での、基本リテラシーとセキュリティ意識を身につけることを目指します。</p>		

20	デジタル・サウンド演習 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	仲井朋子
	開講時期・時間	後期 木曜日 4時限
<p>デジタル・メディアを活用し、サウンドを作品の要素とする制作に取り組みます。</p> <p>受講する学生自らが作品のプランを立て、半期を通じて授業内で制作から発表までを実施します。基本的に、ライブエレクトロニクス、メディア・パフォーマンス、サウンド・インスタレーションなど、作品の形態は自由ですか、Max (Cycling74 社) などのプログラミングを活用することが望まれます。</p> <p>授業内の演習では音楽／映像／マルチメディア用の統合環境である Max8 を使用します。</p>		

21	メディア特論：アート＋ 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	八谷和彦・沼倉真理
	開講時期・時間	通年 水曜日 6時限
<p>創作活動において、様々な専門領域の研究や最先端の発想を知ることが重要です。この授業では、広義のメディア分野の研究者、表現者、実務者などを迎え、ゲスト講師の講演およびトーク形式の講義を行います。なお、講演は日本語で実施します。</p> <p>※ 会場：美校側学食</p> <p>※ 本講座は社会人受講（対面・オンライン視聴）も同時に行なっています。 「社会共創科目（公開授業）」</p> <p>※ また、6時限目の授業ですが、社会共創科目であるため、開始時間は18時30分、終了時間は20時となります。受講する学生は注意してください。</p>		

22	インタラクティブ・ミュージック I 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	仲井朋子、増野宏之
	開講時期・時間	前期 木曜日 4時限
<p>市販のゲームタイトルに注目し、効果音の組み込み方、BGM の作曲方法、インタラクティブミュージックの歴史や概念説明などの講義を行います。</p> <p>ゲーム業界において、この手の作業を行う人を、『サウンドプログラマー（あるいはオーディオプログラマー）』と呼びます。業界の絶滅危惧種といわれるこの分野ですが、非常に志願者が少ないわりに、業界からの需要は非常に高い分野であります。</p> <p>この授業は、サウンドプログラマーという仕事を、明文化された形で、体系的に学ぶことができる史上初めての講義です。</p> <p>本年度は、ゲーム映像に対するサウンド演習として進行し、実際のゲームフレームへの実装は次年度以降の授業で取り扱います。サウンドの演習では、演習室のコンピュータにインストール済みの Logic Pro X を使用します。</p>		

23	ゲーム制作演習 1（前期）・2（後期） 芸術情報センター開設科目	
	授業を行う先生	薄羽涼彌、早川翔人
	開講時期・時間	前期（1）・後期（2） 月曜日 5時限
<p>ゲームの制作を通して、芸術としてのゲーム、表現手法としての可能性について考察します。制作環境としてゲームエンジン Unity を用いますが、順を追って進めていくのでプログラミングの予備知識がなくても履修可能です。基礎の習得と、それぞれが自分のやりたいことへ向かっていくための応用力を養うことを目指します。</p> <p>学生のみなさんには、前・後期ともに、制作したゲームを発表する機会を設けます。</p> <p>前期授業「ゲーム制作演習 1」と後期授業「ゲーム制作演習 2」の内容は同様のため、後期から新しく履修することもできます。</p>		

国際的な学びと交流をサポート

グローバルサポートセンターは、海外留学や国際交流に関心のある学生、そして本学の外国人留学生を支援するセンターです。これから海外での学びや活動を考えている学生には、「Shared Campus」や「大学の世界展開力強化事業」を活用したサマープログラム、ゲストレクチャー、国際共修プログラムを紹介、提供も行っています。外国人留学生に向けては講座「日本の芸術文化を英語で学ぶ」や、茶道・書道などの文化体験、見学旅行、交流イベントを企画し、日本での学びと生活をサポートします。センターの活動に関心のある人はぜひ、「GEIDAI & GLOBAL」<https://global.geidai.ac.jp/> のサイトをチェックしてみてください。

24

国際共修 A

グローバルサポートセンター開設科目

授業を行う先生	今村有策、江上賢一郎
開講時期・時間	通年 集中講義

本授業は、異なる言語や文化背景を持つ仲間たちが「意味ある交流 (Meaningful Interaction)」を通じ、多様な考え方を分かち合いながら相互理解を深め、自己を再解釈することで新たな価値観を共に創り出すための国際共修科目です。本学が加盟しているヨーロッパやアジアの芸術系大学との共同プラットフォーム「Shared Campus」や、「大学の世界展開力強化事業」を基盤とする各種プログラム（例：2週間の海外サマースクール、セメスター・プログラム、海外大学との共同カリキュラム）を履修する学生が対象です。これらのプログラムに参加することで、異なる背景を持つ仲間たちと共に文化や芸術の領域で協働し、グローバル社会で活躍するための準備を進めていきます。

25

国際共修 B

グローバルサポートセンター開設科目

授業を行う先生	今村有策、江上賢一郎、畑まりあ
開講時期・時間	通年 集中講義

本授業は、将来海外での制作、公演、研究に挑戦したい学生のための国際共修科目です。全 15 回の通年プログラムでは、前半にアートを通じた社会包摂プロジェクト「TURN」を軸に、ゲスト講師とともにアートと社会課題の関係や実践例を学びます。後半では、「大学の世界展開力強化事業 (IUEP)」を活用し、イギリス、オーストラリア、インドなど海外の美術大学が担当する英語のオンライン授業を受講しグローバルな視点から文化・芸術が抱える問題にどうアプローチするかを学びます。さらに、本講座では他者理解、コミュニケーション、議論などの基礎能力も養い、海外でのプロジェクトやプログラムに参加するための土台を築くことを目指します。

26

日本の芸術・文化を英語で学ぶ (前期) (後期)

グローバルサポートセンター開設科目

授業を行う先生	江上賢一郎、本学教員、ゲスト講師
開講時期・時間	前期・後期 水曜日 3時限

本授業では、日本の伝統から現代に至る美術、音楽、建築、映像など、幅広い文化芸術を英語で学びます。ゲスト講師や本学教員による英語講義を通して、普段はあまり触れることのない分野はもちろん、すでに親しんでいる分野も新たな視点で再発見できる機会となります。将来、海外での活躍を目指す皆さんにとっても、英語で日本の文化芸術を体系的に学ぶことは、自国の芸術文化を深く理解し、それを的確に表現するための確かな基盤となるでしょう。

リベラルアーツガイド 2025
アンケートのお願い

本ガイドでは、藝大らしいさまざまな芸術や文化の基礎に触れ、両学部や院生と一緒に学びあう「教養」「共通」科目を担当する先生が、それぞれの授業のポイントを紹介しています。藝大での学びの充実化のため、本ガイドを含め、「教養」「共通」科目についてのアンケートをお願いします。スマートフォンやタブレットから回答できますので、掲示している QR コードを読み取って回答してください。



PDF版をご覧の方は、以下のURLにリンクを埋め込んでいます。そこから回答できます。ご協力をお願いします。

【アンケートへクリック&タップ】
<https://forms.gle/Prj8sCSbQhoQuExA9>

27	英米文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	侘美真理	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 3時限	
<p>「英米文学」の授業には目的が2つあります。18世紀～20世紀のイギリス文学に触れ、それぞれの時代の作家が人生や社会をどのように描き、またその世界を「言語テキスト」という形でどのように構築したかを知ることです。もう1つの目的は英語の原文・原作に触れてもらうことです。原文ならではの面白さと小説としての複雑さ、この両方を体験してください。語学の勉強にもなりますが、単語や表現のニュアンスなどテキストを深く読み込むので、文学の読み方の基礎を学ぶことになります。</p> <p>2025年度前期は英国ヴィクトリア朝の「家庭教師」を主人公とした小説を読みます。後期は英国の幽霊・怪奇小説を概観し、英語と日本語の両方で授業をします。</p>			

30	思想史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	伊藤美恵子	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 3時限	
<p>思想史Ⅰ・Ⅱでは、主に西洋の哲学・思想についてお話しします。</p> <p>哲学とは、“哲学する”という行為がさまざまに積み重なり成立したひとつの学問領域です。では、“哲学する”とはどういうことでしょうか。</p> <p>古代ギリシアにおいて、それはもともと“知を愛する”ということでした。知を愛し求めるがゆえに、何かについてまっすぐに問い、考えをめぐらし、そこから思考を展開していくのです。</p> <p>この講義では、そのような哲学することの歴史をたどりつつ、哲学者や思想家たちが、どのような問いを立て、いかに思考をくり広げてきたのかについてお話ししたいと思います。</p>			

28	音楽文化史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	館亜里沙	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 4時限	
<p>私たちの親しむ音楽文化の中では、様々な「音楽」の定義が存在しています。</p> <p>本授業では、その多種多様な音楽の価値観が生まれた歴史を、とりわけ西洋音楽とそれを取り巻く社会に焦点をあて、概観します。過去の音楽を知ること、改めて現代の音楽文化を考察するというのが本授業の到達点です。</p> <p>前期は、主に講義形式で授業を実施、中世から近代までの西洋音楽史を概説します。</p> <p>後期は、主に演習形式で授業を実施、音楽環境創造科の学生が携わることの多い20世紀以降の音楽を採り上げます。</p>			

31	心理学概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	河原美彩子	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 木曜日 5時限	
<p>リンゴは赤く見えます。これは、物理学的にリンゴの表面が特定の波長の光を反射し、また生物学的に私達の目が光の波長に感度をもつためです。しかし、そもそも私達が生きている「赤」とは何かという疑問が残ります。</p> <p>あなた自身が感じている「赤」は他者が感じている「赤」とは違うかもしれません。この疑問は未解明ですが、私達の脳あるいは心の働きにより生じる内面的なふるまいとその法則を知ることは好奇心を満たしてくれます。こと心に関しては、将来の予測にも役立つはずで。</p> <p>この授業では、感覚・知覚・記憶・学習・認識・感情・集団心理など、心理学の主要なトピックに関する知見を歴史的経緯や方法論と結びつけながら体系的に紹介していきます。</p>			

29	芸術文化環境論Ⅰ		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	伊志嶺絵里子	
	開講時期・時間	前期 木曜日 3時限	
<p>芸術文化は不要不急なものでしょうか？</p> <p>この問いに答えるためには、芸術文化が置かれている環境について広い視野と深い知見を持つ必要があります。国や地方自治体、企業、アートNPOといった多様な主体は、芸術家・団体に対して何を目的に、どのような支援を行っているのでしょうか。また、芸術や芸術家自身は、地域社会・住民に対してどのような価値をもたらしているのでしょうか。</p> <p>本授業では、さまざまなセクターによる芸術支援の現状を整理するとともに、地域社会と密接に関わりながら展開されている芸術活動の具体的な事例を紹介し、それらを踏まえ、芸術が社会や人類に及ぼしているかもしれない何らかの貢献要素について、多角的に考察していきます。</p>			

32	美学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	吉田寛	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 5時限	
<p>美学は、感覚や感性について考える学問です。</p> <p>英語ではエスティティクスといいますが、この語は、感覚や感じることを指すギリシャ語のアイステーシスに由来します。感性と美と芸術が、美学の三つの主要な関心領域です。美学はよく芸術学や芸術理論と混同されますが、芸術は美学の対象の一部にすぎません。</p> <p>芸術の制作や鑑賞はもちろんのこと、日常生活のあらゆる場面で、われわれは五感を通して世界を感知しています。思考や感情はすべて感覚や感性と結びついています。身体や感覚は、われわれに属するものというより、われわれと世界の境界です。その境界の在り方や働きについて考えるのが美学なのです。</p> <p>この授業では、芸術だけでなく様々な身近な事象を扱いながら、感性について考えます。</p>			

33	文化人類学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	加原奈穂子	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 2時限	
<p>文化人類学の視点や基本概念、研究方法を紹介するとともに、文化人類学Ⅰでは食べ物、言語、認識・分類、口承文芸、コミュニケーション、Ⅱでは装いやジェンダー、結婚、観光、伝統といった身近な文化の話題について扱います。</p> <p>概論的な紹介にとどまらず、映像や音声の資料を活用しながら、人間の文化の不思議や多様な文化が直面している諸問題について考えていきます。多様な話題を扱いますが、そこからご自身の芸術活動が広がるような研究のヒントをつかんでいただけたらと思っています。</p>			

34	歴史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	草野佳矢子	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 3時限	
<p>この授業では、19世紀末から20世紀末までのいわゆる「西洋史」を講義します。</p> <p>西洋史の知識は、現代のヨーロッパやアメリカ、また過去にその支配下にあった地域で起こっていることやその背景を理解するために必要であり、また芸術作品の鑑賞やみなさんの創作活動にも有用なものであると思います。</p> <p>授業では、講義内容の理解を深めていただくため、関連する映像やドキュメンタリー番組も視聴します。その際、番組内の説明が講義での説明と多少異なることがあります。講義での説明は、おおむね定説に沿ったものになりますが、歴史像は語り手の立場や史料の解釈などによって異なりうるからです。</p> <p>講義を聞き、映像を視聴して、疑問を持った事柄について自身で調べてみてください。そのことにより、高校までの暗記中心ではない、歴史を学ぶことの面白さを感じることができるでしょう。</p>			

35	バレエ史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	川島京子	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 3時限	
<p>バレエはイタリアで生まれ、フランスで育ち、ロシアで花開いたといわれます。さらに20世紀になると、このロシア・バレエがロシア革命によって全世界へと伝播してゆきます。</p> <p>授業では、こうしたバレエ史の通史を押さえつつ、それぞれの時代の作品の特徴について学びます。バレエ芸術の基礎から文化的・政治的コンテキスト、ほかの芸術ジャンルとのつながりなど、広い視野からのアプローチの中でたくさんの発見をしていただき、みなさん自身の表現につなげていってほしいと思っています。</p> <p>前期の「バレエ史Ⅰ」では、舞踊の起源から19世紀のロシアのクラシック・バレエまで、後期の「バレエ史Ⅱ」では、20世紀のバレエ・リュスから現代までのバレエを学びます。</p>			

36	芸術と社会 21世紀の社会が求める創造性とは（企業編） 集中講義		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	熊倉純子、井上智治 ほか	
	開講時期・時間	集中講義	
<p>昨今、世界的に企業の芸術に対する注目度が著しく上がっています。</p> <p>しかし、企業が求める「創造性」とは、どのようなものなのでしょうか。はたして、今日の藝大生の創造性は日本企業の求めるものにマッチするのでしょうか。</p> <p>本授業は、複数の日本企業の様々な部署で働く第一線の人々を講師に迎え、藝大の様々な学科・専攻から集まった学生とワークショップ形式で対話を試みるものです。学生は、参加企業から出される課題を選び、グループワークを通じて解答となる具体的プランを考え、提案を行います。</p> <p>授業を通じて、まずは「社会に媚びずに発想する」力を養い、それを「伝える」方策を模索する経験値を培うことを目指します。</p>			

37	音楽療法Ⅰ		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	今野貴子	
	開講時期・時間	前期 木曜日 4時限	
<p>みなさんは一人の人と対面した時に、自分の音楽を活かして関わることはできるでしょうか？</p> <p>音楽療法の理論と技術には、乳幼児から高齢者に至る幅広い年齢層に対して、さまざまな病気や障害、環境や文化を持つ対象者に寄り添いながら、医療福祉施設、学校、コンサートホールなど多様な現場で音楽を提供するためのヒントが詰まっています。</p> <p>授業では、音楽療法の基礎的な理論や実践例について映像を交えて紹介するほか、自分の専門性を生かしながら様々な対象者と関わる技術や、多様な音楽活動を企画するコツについて実践的に学ぶ予定です。</p> <p>ぜひ、音楽療法の視点から、自分の感性と音楽技術を人のために活かす方法を見つけてください。</p>			

38	音楽療法Ⅱ		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	重田絵美	
	開講時期・時間	後期 木曜日 4時限	
<p>現在の日本の音楽療法は、乳幼児から高齢者まで幅広く対象とし、発達支援やリハビリテーション、社会参加、看取り等、さまざまな臨床的目標のもとに行われています。</p> <p>授業では、様々な領域における音楽療法の事例を、映像やロールプレイング等を交えて紹介し、音楽による関わり、臨床的な目標に向けたアプローチ等について学びます。授業を通して、様々な人との関わりや音楽活動において幅を広げる機会になることを期待しています。</p> <p>音楽療法の実践例から、一人一人の成長発達を支え、個々の生き方に寄り添う音楽の意味や可能性について学ぶことができます。みなさんが、音楽の届け方、社会における音楽の可能性等について考えることにも、つながっていくことでしょう。</p>			

39	ドイツ文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	白鳥まや	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 2時限	
<p>本授業ではドイツ語圏の作家やドイツ語で書かれた作品の中で重要と思われるものをピックアップし、講義形式で紹介しつつ、中世から現代までのドイツ語圏の文学の歴史やその文化的背景を学びます。</p> <p>詩や短い作品であれば事前に参加者に読んできてもらい、授業内で感想や解釈について話し合う時間を設けたいと考えています。ドイツ語の知識は必ずしも求めませんので、ドイツ語履修者のみならず、これから学びたい人も歓迎です。文学に興味がある人やドイツ語圏への留学を考えている人に、「ドイツ文学にはこういう作品があるんだ」、「この作品が生まれた背景にはこんな歴史や文化があったんだ」と知ってもらえるような内容にしたいと考えています。</p>			

40	フランス文学Ⅰ		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	大森晋輔	
	開講時期・時間	前期 水曜日 3時限	
<p>19世紀フランスは、「文学が輝いていた時代」といわれるほど華やかでした。政治的にも社会的にも多くの課題が山積するなか、ロマン主義が全盛期を迎え、ジャーナリズムや交通網の発達などがこれを後押ししました。</p> <p>この授業では、そんな時代に生まれた文学作品を、原文の抜粋を読むことを通じて概観します。文学作品が生まれた時代背景を知ること、作品をより身近なものにしてもらうこと、そして、テキストの読み方を習得することで、文学鑑賞そのものの深い魅力を味わってもらうことがその目的です。</p> <p>取り上げる作家や詩人はユゴー、ネルヴァル、スタンダール、バルザック、フローベール、ボードレール、ヴェルレーヌ、マラルメ、ランボーなどです。</p>			

41	フランス文学Ⅱ		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	大森晋輔	
	開講時期・時間	後期 水曜日 3時限	
<p>20世紀のフランス文学では、「戦争の世紀」ともいわれる激動の時代を反映してさまざまな試みが現れましたが、同時に人文諸科学の成果を取り込むことで人間に対する多くの深い洞察を生んでいます。</p> <p>この授業では、そんな時代の文学作品を、原文の抜粋を読むことを通じて概観します。文学作品が生まれた時代背景を知ること、作品をより身近なものにしてもらうこと、そして、テキストの読み方を習得することで、文学鑑賞そのものの深い魅力を味わってもらうことがその目的です。</p> <p>取り上げる作家や詩人は、クローデル、ジッド、ブルースト、ヴァレリー、アポリネール、ブルトン、サン＝テグジュペリ、カミュ、ポンジュ、バルト、キニャールなどです。</p>			

42	舞台芸術広報概論 アーツのための広報の基本		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	阿南一徳	
	開講時期・時間	後期 水曜日 3時限	
<p>「なぜ藝大生が広報について知っておくべきなのか？」</p> <p>そんな問いかけを、毎年授業の初めにしています。高い実力を持ちながら、好感を持たれるか否かの差はどこで決まるのか？本授業では「社会における芸術の意義」といったテーマはあえて大前提としてスキップし、美術であれ音楽であれ、自分（たち）や施設の存在や活動、企画やイベントなどをどう周知させ、好感や共感を獲得するかを、マニュアルの伝授ではなく皆さんと一緒に考えていきます。</p> <p>その際には、広報的に支持される表現とは、逆に不適切な表現とは、広報的に伝わる文章・伝わらない文章とは、など実践的な部分もワークショップ形式で展開する予定です、特に経験等は不要です。柔軟で旺盛な好奇心を持ってご参加ください。</p>			

43	ビデオプロダクション入門		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	隈元秀彦、山田香	
	開講時期・時間	通年 木曜日 5時限	
<p>動画配信など映像表現の幅が広がり且つ重要性が高まる中、本授業では普遍的な映像制作プロセスであるプリプロダクション（企画立案、撮影準備等）・プロダクション（撮影・録音・素材作成等）・ポストプロダクション（映像編集等）を講義、実習を通して学びます。</p> <p>テレビ番組制作の現場でも使用される業務用ビデオカメラやスイッチング収録機器等に触れながら、自分が撮る側、あるいは撮られる側になった時にどんな発言ができるか、どう振る舞えるかといった自己表現の助けになる知識を得て欲しいと思います。実際に演奏の収録や映像作品の制作も行います。</p> <p>音楽・美術学部交流科目です。詳しくはシラバスを参照してください。</p>			

44	映像音響処理概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	田中誠人	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 5時限	
<p>オーディオビジュアルライズをはじめとしたリアルタイム映像生成やインタラクティブコンテンツ制作のための手法を学びます。</p> <p>メインとなるツールはノードベースのプログラミング環境であるTouchDesignerです。3D表現を扱うため、オープンソースの3DソフトであるBlenderについても基礎的な使い方を紹介します。また、照明をはじめとした舞台機器との連携のため、DMXやMIDIについても扱います。</p> <p>基礎から解説するため、プログラミングへの挑戦がはじめてでも問題ありません。</p> <p>電子工作創作表現と一部連携した授業となっており、そちらも受講することでセンサーやアクチュエーターとの接続も学ぶことができます。</p>			

45	音響作品創作研究Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	後藤英	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 4時限	
<p>この授業では、メディアアートの創作を通して、テクノロジーとアートの関係性の可能性を追求し、新たな表現を創造する力を養います。学生は、メディアアート作品例、プログラミング、作品制作方法など、幅広い知識と技術を習得し、独自の作品を制作することを目指します。</p> <p>授業は、講義、作品分析、実習、合評などを通して行われます。学生は、様々なテクノロジー（プログラミング、センサー、映像、音響など）を駆使し、作品の素材を集め、編集し、構成することで、作品を制作します。また、他の学生や先生との議論を通して、作品の質を高めていきます。</p> <p>本授業では、固定観念にとらわれず、自由な発想でテクノロジーと向き合うことを大切にします。メディアアートの創作は、技術だけでなく、感性や創造性も重要です。学生の皆さんには、積極的にテクノロジーと戯れ、自分だけのメディアアート作品を創り上げてほしいと願っています。</p>			

46	電子工作創作表現Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	田中誠人	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 4時限	
<p>インタラクティブコンテンツやインスタレーションの制作手法として、電子工作やマイコン制御の技術を学びます。</p> <p>主にマイコンボードである Arduino を使用し、物体や環境のセンシング、光や音による情報の出力、モーターをはじめとしたアクチュエーター（駆動装置）の制御などをおこないます。無線を使用し、それらを遠隔制御することも可能です。回路を安全に運用するための CAD ソフト（Fusion）による筐体設計も含め、電子回路や電氣的な仕組みを作品に取り入れるための基礎知識が一通り得られます。</p> <p>「映像音響処理概説」と一部連携した授業となっており、そちらも受講することで PC との接続やデータ処理も学ぶことができます。</p>			

47	作り手のためのドラマツルギー概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	長島確	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 木曜日 5時限	
<p>物語やフィクションを自分の創作のなかでどう使っていくかを考えるのに役立つ授業です。</p> <p>前期（Ⅰ）では、超速で実演芸術史を辿ります。古代の演劇から現代のパフォーマンスアート、アートプロジェクトまで、「もの」ではなく「こと」を作るジャンルを横断的に扱います。個々の作品・作家よりは、どんな時代・社会において、誰が、誰に向けて、どんな場所で上演していたかに着目します。演劇を軸に、舞踊、音楽はもちろん、文学、哲学、美術、映画などにも触れていきます。</p> <p>後期（Ⅱ）は、広義のドラマ（行為を組み合わせて時間軸上で意味を発生させていく手法・形式）について、いろいろな角度から考えていきます。現実とフィクションの関係、時間の扱い方、誰目線で語るのか、など。後期からの履修も可能です。</p>			

48	音響技術史		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	棚瀬廉人	
	開講時期・時間	前期 金曜日 1時限	
<p>音声の記録・再生技術の歴史を概説し、文化や芸術に及ぼした影響を議論します。</p> <p>アナログからデジタルへの変化、インターネット配信の登場、そして映像との複合による総合コンテンツ（ゲームや VR を含む）への発展やマルチチャンネルオーディオへの進化などに触れます。</p> <p>技術や文化が音楽やコンテンツに与えた影響を、各自の観点で再考、考察する機会となり、皆さんの新たな創造の一助になれば幸いです。</p>			

49	デジタルミュージック創作研究Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	後藤英	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 3時限	
<p>この授業では、デジタル技術を駆使した音楽創作の可能性を追求し、新たな音楽表現を創造する力を養います。学生は、デジタル音楽制作の基礎から応用まで、幅広い知識と技術を習得し、独自の作品を制作することを目指します。具体的には、プログラミングによる音楽制作、AI（人工知能）を活用した音楽制作、音響デザイン、デジタル楽器の制作などを学びます。</p> <p>授業は、講義、作品分析、実習、合評などを通して行われます。学生は、様々なデジタル音楽制作ツール（プログラミング言語、AI 音楽生成ツールなど）を実際に操作し、作品を制作します。また、他の学生や先生との議論を通して、作品の質を高めていきます。</p> <p>デジタル技術を道具としてだけでなく、創造的な思考を刺激するパートナーとして捉えることを大切にします。学生の皆さんには、固定観念にとらわれず、自由な発想でデジタル音楽と向き合い、自分だけの音楽を創り上げてほしいと願っています。特に、AI などの最新技術を積極的に取り入れ、新しい音楽表現に挑戦することを奨励します。</p>			

50	楽器音響学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	三浦雅展	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 1時限	
<p>楽器および音楽を音響分析するための基礎を学びます。</p> <p>最初に研究事例を複数通り説明します。その後プログラミング言語 python を用いて音響分析を行ないます。受講者は自らが所有するパソコンを用いて、レクチャーと実習形式により実施します。学術研究者として音楽音響信号を分析するだけでなく、民間企業との共同開発を行なった経験を持つ教員が担当します。音響信号処理の基礎、音響心理の基礎、python プログラミング、機械学習やいわゆる AI の分野が関係します。Python プログラミングの基礎を理解した後に応用範囲を広げたい方、楽器音や音楽音響音の分析方法を知りたい方、また機械学習や AI に興味がある方におすすめの授業です。</p>			

51	「カルチュラル・マッピング」とアートプロジェクトの分析法		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	ラナ・トラン	
	開講時期・時間	前期 水曜日 2時限	
<p>場所に対する感覚や記憶をどのように理解し、表現できるのか？そのプロセスにはどのような人々が関わっているのか？この授業ではアートプロジェクトにおける「場」の概念の新しい解釈を紹介します。</p> <p>本授業の基礎となるボトムアップ的な表現手段に着目した「カルチュラル・マッピング」という概念は、カナダや東南アジア諸国で幅広く実践で用いられている手法ですが、日本ではまだまだ知られていません。</p> <p>参加型アートは日本でも盛んにおこなわれていますが、作品中心主義から脱する手法のヒントが得られる授業となります。履修生のワークショップも交えながら、体験を含めて学んでゆきます。</p>			

52	音響心理研究法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	丸井淳史	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 2時限	
<p>音を科学的に評価することについて考える講義です。</p> <p>代表的な音の評価法には音響測定と心理評価の2つがあり、前者はマイクロホンなどを使って収録した音の音圧レベルや周波数特性を分析し、後者は注意深く計画された主観評価実験が不可欠です。</p> <p>主観評価実験では、音について語るための語彙の準備、数値評価の方法、実験参加者の判断の誤りやバイアス、収集されたデータの統計分析、学会論文としてのまとめ方や研究倫理など、知っておかないといけないことは盛り沢山です。この講義では、それらの知識を身につけるとともに、学会や研究会で発表できる論文の執筆を目指します。翌年度に卒業論文や修士論文を書く学生を主な対象としています。</p>			

53	空間音響研究Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	中原雅考	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 2時限	
<p>音には、(1)音が発生してから耳に届くまでの現象、(2)耳に届いてから脳へ伝達されるまでの現象、(3)脳内で処理される現象、といった三種類の現象が含まれます。(1)は物理現象、(2)は生理現象、(3)は心理現象となりますが、「空間音響研究」では(1)の現象、すなわち「音波」としての音の仕組みを解説します。</p> <p>音の経験が豊かになると、音を擬人化して自分の都合の良いように捕らえがちですが、音波は空気を媒質として伝搬する情報であり、生物ではなく物理現象です。例えば、音波が発生することで何かの物質が生まれたり、音波が何かの物質を消費したりすることはありません。そのような音の振る舞いを理解するためには、音波の工学的な観点からの理解が不可欠となります。</p> <p>前半の「空間音響研究Ⅰ」では「音波とは何か」「周波数領域の世界」「音の放射と伝搬」などを、後半の「空間音響研究Ⅱ」では「吸音反射」「響きとは」「中域・高域・低域の響き」などを通して、空間に放たれた音波の性質と制御方法に関して解説します。</p>			

54	高臨場感音響設計概論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	杉本岳大、蓮尾美沙希	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 5時限	
<p>高い臨場感を有するコンテンツの制作およびユーザへの提供に必要な、音響技術の基礎を学びます。高臨場感コンテンツは、聴覚心理学、音響工学、オーディオ技術、空間音響学、音場の收音再生技術、音響関連規格などに対する総合的な理解が欠かせません。</p> <p>本講義では、これらの知見の習得とともに、コンテンツの收音・制作・伝送・再生を実現する具体的な方法を解説します。さらに、イマーシブオーディオ作品の視聴体験、制作ツールを使った演習、プロの制作現場見学などの機会を設け、理論と実践の両面から高臨場感音響設計に対する深い理解を目指します。</p>			

55	声楽実技演習Ⅰ・Ⅱ		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	中島郁子	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 2時限	
<p>声楽実技演習では、自然な声で歌うための姿勢や呼吸法など、声楽の発声の基礎を学んでいきます。</p> <p>前期の授業では、日本歌曲やイタリア歌曲等の発音や音楽的な表現を学びながら、全員で歌って行きます。後期の授業では、学期末の発表会に向けて自由曲を選び、独唱曲や重唱曲、合唱曲を学んで行きます。</p> <p>声楽や合唱の経験のない方でも、歌う事の好きな方、興味のある方に履修して頂きたいと思います。月曜日2限、千住校舎での開講です。一週間の初めに、気持ちよく声を出して行きましょう。</p>			

56	DTP出版編集演習Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	角谷剛	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 木曜日 3時限	
<p>出版物を通して自分や誰かの考えや情報を多くの人に誤解なく伝えるのは、それが「ふつうの内容」であったとしても実際はとても難しいものです。編集やデザインを行う作り手は、自分だけでなく読者やクライアントそれぞれの立場からの視点が求められ、制作においては文字、文章、図版、色、レイアウト、校正、用紙、印刷製本、著作権法といった領域の知識や技術が必要になります。授業ではAdobeのDTPアプリを使いチラシ、雑誌、書籍等の制作をしながらそれらを初歩から学んでいきます。</p> <p>「伝えるための技術」の習得が、音楽や美術という、そもそも伝えにくいことを伝えようとする皆さんの活動にも役立っていくことを願っています。</p>			

57	ポピュラー音楽研究Ⅰ ボーカロイド音楽論		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	鮎川ばて	
	開講時期・時間	前期 水曜日 5時限	
<p>本授業は、現代日本のポピュラー音楽の中でも重要な存在感を示す「ボーカロイド音楽」に注視し、批評、分析を行います。アプローチ手法として、人文科学の一ジャンルとして確立された「批評理論」を活用します。批評理論は、ジェンダー論、精神分析、記号論など、これまでの人文科学の達成を凝縮したものです。ですので、本学におけるこの講義は広範な「人文科学入門」として機能します。</p> <p>キーワードは「アンチ・セクシュアル」。ボカロシーンに見られる恋愛、性愛などの通念を自明とはしない感性を追っていきます。ジェンダー／セクシュアリティの議論が、全体の1/3以上を占めることとなります。フェミニズム、LGBTQをはじめとする性の多様性理解、キア理論など、ジェンダー論の基礎を習得することにも本講義は貢献します。</p> <p>2023年度から開講の比較的新しい講義です。対象学生は学部1年から修士2年生であり、当該学年のうちどの時点の学生も参加を歓迎します（卒業要件単位に相当するかどうかについては、各自の責任で確認してください）。感覚を思考の俎上に載せることを恐れないあなたのご参加をお待ちしています。</p>			

58	芸術運営論Ⅰ：著作権と文化・メディア契約		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	福井健策、小林利明、橋本阿友子	
	開講時期・時間	後期 木曜日 4時限	
<p>本講義は、あらゆる芸術分野の関係者にとって必須の知識となった「著作権」「文化・メディア契約」を、基本から学ぶ講座です。</p> <p>「炎上」や生成AIといった今の時代のトピックにも触れながら、自らの権利を守るための契約スキルの基本の理解も目指します。</p> <p>講義ではできるだけ身近な具体例を素材として取り上げ、さらには第一線で活躍するゲスト講師を招いたトークも交えながら、楽しく進めます。</p>			

59	芸術運営論Ⅰ：音楽マネジメントⅠ		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	西巻正史	
	開講時期・時間	後期 木曜日 2時限	
<p>「芸術（以下、アート）」は、これまで日本においてまた世界において、どのように創造され受容されてきたのか、そして今後どのように創造され、受容されるべきなのか。アートといかに付き合い、向き合い、人生を豊かに育むか。</p> <p>人間の最も人間らしい、精神的な営みである「アート」と「社会」の関係について様々な角度、時代、ジャンルから考えながら、広い視点から「アートと生きる」スタンスの確立をめざします。言い換えれば、表現者として、受容者として、アートでいかに人生を豊かにするか、人と繋がるか、そうした発想の持ち方、拡げかたについて学ぶ場となります。</p> <p>「音楽マネジメント」というタイトルになっていますが、コンサートの制作についてのノウハウ等については基本触れません。また定員制限を課すことがあるのでご了承ください。</p>			

60	芸術運営論Ⅰ：音楽マネジメントⅡ		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	大久保有華	
	開講時期・時間	前期 木曜日 2時限	
<p>音楽文化には創造だけでなく、その多様な価値を社会へと届け、共有するプロセスが不可欠です。音楽はライフスタイルやアイデンティティ、コミュニティの形成など人々の営みと深く結びつき、さまざまな領域と影響し合いながら、社会に反映されます。そして、その営みが新たな音楽を生み出す源泉となり、時間を超えて循環していきます。</p> <p>デジタルプラットフォームの拡張やAIの台頭など、技術革新によって産業構造が目まぐるしく変化する時代の中、多様な“個”と向き合う、より豊かな循環を生み出す環境づくりが求められています。</p> <p>この講義では、社会との接点にあるさまざまな音楽活動が、どのように実践されているのか、多角的な視点で捉え、マネタイズ市場での価値と、数字では計れない普遍的な価値の両面を考察しながら、音楽と社会をつなぐ新たな可能性を、みなさんと考えたいと思います。</p>			

61	芸術運営論Ⅱ：経営学 集中講義		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	山下勝	
	開講時期・時間	前期 集中講義	
<p>この授業は経営学とは言っていますが、その目的は個々人のアイデアや作品を周囲の集団や組織に認めさせることにあります。そのために、われわれは集団や組織の特徴をよく知り、そこでどのように振る舞うべきかを知らねばなりません。</p> <p>集団や組織に関する基礎理論のレクチャーを受ける回と、その基礎理論の理解を深めるためのディスカッションを行う回と、交互に進めていきます。主体的に取り組んでもらうことで、理論を実践的なレベルで身につけてもらうためです。</p> <p>提出物も多く、集中講義の3日間はホームワークも含めて大変だとは思いますが、ぜひ本気で受講してみてください。きっと大きな成長の機会となるはずですよ。</p>			

62	芸術運営論Ⅱ：マーケティング 集中講義		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	池上重輔、岡弘子	
	開講時期・時間	前期 集中講義	
<p>芸大の皆さんにとってのマーケティングは単なる販売活動ではなく、“アーティストが自身の作品やブランドを適切な市場に届け、認知度を高め、価値を伝え、持続的な収益を生み出すための戦略と手法のこと”になるでしょう。</p> <p>本講座は初学者を対象に、双方向的な講義、実際の組織事例をもとにしたケーススタディ、ワークショップ等を通じて実ビジネスで通用する戦略・マーケティングの基礎を学びます。の上で皆さんが選択したテーマに関する実践的プレゼンテーション作成を通してマーケティングの一連の流れを体感できるように設計されています。</p>			

63	ジェンダー論 #1・#2		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	清水知子	
	開講時期・時間	前期 水曜日 3時限	
<p>アートとジェンダーに関する基礎的な概念や理論を学びながら、現代の社会的、文化的事象について、また AI をはじめとする科学テクノロジーとジェンダーについて考察する力を養うことを目的とします。</p> <p>授業を通して、フェミニズム理論、クィア理論をはじめ、身体、欲望、生と不可分な様々な規範の構造を問い直す視座を身につけ、社会の複雑な問題に対する批判的思考を深めることを期待します。</p>			

64	日本音楽概論		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	野川美穂子	
	開講時期・時間	前期 木曜日 2時限	
<p>縄文時代から現代まで、日本人はさまざまな音楽に親しんできました。日本音楽の特徴の一つに多様性があります。多種の楽器があり、似ているようで特徴の異なる多様な音楽ジャンルが共存しています。そこには、一人一人が自らの感性を研ぎ澄まし、いっぽうでは他者の感性を尊重して、こだわりをもって工夫を積み重ねてきた歴史があります。</p> <p>5 文学、演劇、舞踊などと一緒に楽しみ、ちょうど和歌における本歌取りの技法のように、異なる時代に成立した音楽や、同時代の音楽ジャンルにも結びつけて楽しんできた歴史があります。この授業では、日本音楽の多様性と、それぞれの奥行きを深めることができるよう、映像を積極的に用いて講義します。</p>			

65	録音技法研究Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	亀川徹	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 3時限	
<p>今やスマホを使えば誰でも簡単に録音ができる時代となりました。ひと昔前と比べても、スマホの録音機能はかなり高性能になってきており、特に音に関する知識がなくても高品質の録音が可能です。</p> <p>一方で、そうやって録音した音に不満があり「もう少しはっきりとした音にしたい」「もっと低音を豊かにしたい」といった場合にどのようにすればよいのでしょうか？</p> <p>この授業では、マイクロホンやミキシングコンソール、DAW といった様々な録音機器や、録音スタジオやコンサートホールなどの録音環境について講義と実習を通じて学ぶことで、自分が思うとおりの音を得るための解決方法を導き出せる能力を習得することを期待しています。</p>			

66	音響学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	渡邊祐子	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ） 火曜日 1時限・後期（Ⅱ） 木曜日 1時限	
<p>“音”とは、私たちの生活環境に存在し、私たちの生活を“豊か”にも“不快”にもする重要な環境パラメータです。</p> <p>前期の音響学Ⅰでは、音を扱う学問（音響学）の歴史と変遷を概説したあと、音の物理的特性として音の発生、音波の伝搬などが地球の物理法則に基づいていることを解説します。一方で、ヒトは聴覚（耳）を通して音を知覚します。その機能（生理）や感覚的性質（心理）についても解説します。</p> <p>後期の音響学Ⅱでは、音響学に含まれる様々な分野や技術、例えばデジタルオーディオ、音声、3D 音響、サウンドマップなどの解説や最新のトピック紹介を通して、音に関する知識を深めることを試みます。</p> <p>※本紹介は「藝大リベラルアーツガイド 2024」からの転載です。2024 年の授業内容を参考として掲載します。</p>			

67	著作権概論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	桑野雄一郎	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 2時限	
<p>音楽と関わっていく上で著作権法は避けて通れません。音楽作品を創作する人、音楽作品を演奏・歌唱する人、演奏・歌唱された音楽作品を視聴し、それを利用する人、それぞれについて著作権法の定めている様々な権利が密接に関係します。</p> <p>前期のⅠでは、みなさんにとって身近で、またとても重要な著作権法の概要について解説をします。法律の中でもなかなか複雑でわかりにくく、またファジーな要素が多いのですが、弁護士としての実務経験も踏まえて、実例なども紹介しながら進めていきます。</p> <p>後期のⅡでは、Ⅰで学んだ著作権法の概要を踏まえて（ただし、Ⅰを履修していることは履修の要件ではありません）、具体的な事案を紹介しながら理解を深めます。実際に紛争になった事例や、炎上騒動になった事例、特に問題にはならなかったが著作権について考えるのによい事例などについて、具体的な題材を提供しながら、解説をしたり、みなさんと一緒に考えたりしながら進めていきます。最新のトピックスでいいものがあれば、それを取り上げることもあります。</p> <p>適宜、動画や音源などの資料を視聴してもらったり、短い文章を読んでもらったりする予定です。</p> <p>※本紹介は「藝大リベラルアーツガイド 2024」からの転載です。2024 年の授業内容を参考として掲載します。</p>			

68	現代芸術概説		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	卯城竜太	
	開講時期・時間	後期 水曜日 5時限	
<p>今のアートシーンで交わされる議論をテーマに、生徒たちにその論点を展示として表現してもらいます。</p> <p>美術史は一人の視点ではなく「複数性」の中でこそ理解されるべきもの。アートは知識を前提としますが、同時に、無知や偏見があっても（自分もそうでしたが）、自分が信じる芸術をもとに誰もが語る資格があるものです。ともに社会を解釈し、アートの学びを更新することを目的とします。</p> <p>※本紹介は「藝大リベラルアーツガイド 2024」からの転載です。2024 年の授業内容を参考として掲載します。</p>			

69	ポップ論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	桜井圭介	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 5時限	
<p>ほんの100年ちょっと前に始まったユース・カルチャー、それ以前には社会を回している「大人」が独占していた文化（主流の／規範的な／メジャーな）に対して起こった、コドモのコドモによるコドモのためのカルチャーについて見ていきます。</p> <p>ここでいう「コドモ」とは、「（例えばアメリカ合衆国における）非白人」「女性」「同性愛者」など、様々な意味における「マイノリティ」のこともあてはまるでしょう。</p> <p>具体的な足掛かりとして、アメリカン・ポップ・ミュージック史、日本社会の転換期＝1980年前後のポップ・カルチャー全般を概観していきます。どちらも、遠い過去の話に思えるかもしれませんが、僕たちの現在のポップ・カルチャーの起点であり参照点だと思えます。</p> <p>※本紹介は「藝大リベラルアーツガイド2024」からの転載です。2024年の授業内容を参考として掲載します。</p>			

70	メディア・リテラシー		音楽学部開設科目
	授業を行う先生	白盛琇	
	開講時期・時間	前期 木曜日 2時限	
<p>わたしたちがコミュニケーションを行なう際に基本になるのは言語です。</p> <p>わたしたちは言葉を話すことで人々と疎通し、文字で書き残すことによってより広く伝え、長く残すことができます。しかしながら、現代において言語だけではなく、ビジュアルなものがコミュニケーションの役割を担うことが益々多くなってきています。新しいメディアの普及とそれによる私たちのメディア使用と感覚の変化もその理由になるでしょう。</p> <p>この授業では絵画、映像、写真のシンボル・記号・アイコンなどのビジュアル情報を読み解きます。歴史的な起源、異文化的な相違、現代のマスメディアの観点から読んでいきます。</p> <p>※本紹介は「藝大リベラルアーツガイド2024」からの転載です。2024年の授業内容を参考として掲載します。</p>			

71	劇場技術論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		演奏藝術センター開設科目
	授業を行う先生	瀬戸口郁、松岡あさひ	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 3時限	
<p>劇場における、戯曲や台本を視覚化・立体化するための照明・音響・美術などの舞台技術、ならびにそれらが総合された舞台芸術について、各分野の専門家をゲストに招いて行う講義形式の授業です。</p> <p>この講義は座学ですが、舞台におけるパフォーマーとしての実践に興味のある学生は、舞台芸術実践論Ⅰ・Ⅱ（月曜4限）を併せて履修することを推奨します。</p> <p>表現者にとって、教養と考える力とコミュニケーション力は、今後益々大切な時代になっていきます。この授業で学生が他ジャンルの学生たちと出会い、授業を通じアートに切り込む新たな視点を獲得してくれると嬉しく思います。</p>			

72	舞台芸術実践論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		演奏藝術センター開設科目
	授業を行う先生	瀬戸口郁、松岡あさひ	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 4時限	
<p>舞台芸術を、総合芸術としての演劇を中心に、戯曲、台本、演出、演技、音楽など、様々な面から分析的にとらえ、それらが劇場空間の中でどのように融合し立体化されるのか、各分野の専門家をゲストに招き、実践も交えながら講義します。</p> <p>皆さんにも実際に体を動かして実践してもらいますので、動きやすい服装・靴でお越しください。劇場における技術やスタッフワークに興味のある学生は、劇場技術論Ⅰ・Ⅱ（月曜3限）と併せて履修することを推奨します。</p> <p>表現者にとって、教養と考える力とコミュニケーション力は、今後益々大切な時代になっていきます。この授業で学生が他ジャンルの学生たちと出会い、授業を通じアートに切り込む新たな視点を獲得してくれると嬉しく思います。</p>			

73	ホール音響概論 集中講義		演奏藝術センター開設科目
	授業を行う先生	鈴木航輔	
	開講時期・時間	集中講義	
<p>コンサートホールをはじめとするホールの音響設計の概要を、講義と実習を通じて学ぶ3日間の集中講義です。</p> <p>講義は音楽・美術学部交流科目のため、音とは何か、から始めます。</p> <p>音そのものの物理的な性質や人間の聴覚の仕組み、建築と音との関係、ホールに要求される静けさや響きの良さが、どのように得られているか、またホールの音響特性がどのような建築条件に関係しているか、といったことを習得するための内容になります。</p> <p>実習は講義内容を体験的に学習することを目的としています。奏楽堂の可変機構を活かして、ホール天井の高さや内装仕上げが変わることによる音の響きの印象の違いを演奏者、聴衆の立場で聴いてみる、という内容です。</p>			

74	サウンドレコーディング基礎演習		演奏芸術センター開設科目
	授業を行う先生	浜田純伸	
	開講時期・時間	通年 金曜日 2時限	
<p>現代の音楽は、実演をその場で聴くことよりも、むしろ録音されたものを聴く機会の方が増えてきています。その場合どんなにいい演奏をしても、録音がひどければその演奏の魅力が損なわれてしまいます。また、主にポピュラー音楽においては、そもそもアンサンブルが成立しないような楽器編成を録音技術によって音楽に仕立て上げているというのが実情です。</p> <p>この授業では、音楽録音の手法を基礎から学ぶことにより、録音された音が自分の理想とする音になるためにはどうすればいいか？について、講義と演習を通じて理解を深めていきます。実習は本学音響研究室スタジオに加え、第6ホールや奏楽堂での録音も行い、幅広い音楽の収録体験ができます。</p>			

75	「障がいとアーツ」研究		演奏芸術センター開設科目
	授業を行う先生	高橋幸代、楠田健太、松岡あさひ	
	開講時期・時間	通年 水曜日 4時限	
<p>多様性が尊重される社会において、芸術の果たす役割とは何でしょうか。</p> <p>本授業では、障がいのある人と芸術との関わり、その表現に触れながら、創造的な視点で芸術の新たな価値を創出し、多様な人が“共に生きる”社会の実現を目指します。</p> <p>福祉施設や特別支援学校、公共ホール等と連携したワークショップ、障がいのあるアーティストとのコラボレーションなど、様々な出会いの中で、受講生が主体的に考えて企画し、分野を超えて協働し実現していきます。</p> <p>また、視覚障がい者のアテンド講習や実践、ゲスト講師を招いて芸術の特別支援教育や国内外のインクルーシブアーツなどについて学び、誰もが等しく芸術を享受し表現できる環境づくりについても考えます。</p>			

76	社会哲学特講Ⅰ 日本戦後サブカルチャー論		演奏芸術センター開設科目
	授業を行う先生	丸山俊一	
	開講時期・時間	前期 水曜日 5時限	
<p>私たちは今、どんな世界、どんな時代に生きているのでしょうか？</p> <p>戦後日本社会の空気の変遷を、1960年代から90年代までを中心に映像を通して辿り、その軌跡から考えます。映画、マンガ、ポップス、パフォーマンス、流行…、時代を彩った表現から、メインから零れ落ちていた埋もれた声、隠された人々の思いが浮かびあがります。もう一つの歴史の可能性が、ありえたかもしれない社会が、見えてきます。</p> <p>皆さんそれぞれが挑む表現の世界の現在地、そしてこれからの可能性を考えるきっかけとなれば幸いです。日本社会にあって、現代にあって芸術が果たす役割とは？そのヒントがここにあります。一緒に考えましょう。</p>			

77	社会学 集中講義		美術学部開設科目
	授業を行う先生	土橋臣吾	
	開講時期・時間	通年 集中講義	
<p>社会学はたいへん幅の広い学問ですが、この授業では、ポピュラー音楽を素材としながらメディアの社会学の基礎を学んでいきます。</p> <p>「音楽をめぐるメディアの変遷」が直接の議論の対象となりますが、それを通じて、メディアというものが文化や社会のかたちにごう作用するのかを理解することが、この授業の主眼となります。そのために、「マスメディアと音楽」「デジタルメディアと音楽」「ソーシャルメディアと音楽」の3セクションに分け、それぞれのセクションの初回で重要な理論や概念について学び、その上で事例の分析を行います。</p> <p>授業の形式としては、座学が6割、ワークショップ形式が4割というかたちで、動きのある授業を展開するように心掛けています。</p>			

78	生物学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	伊藤正則	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 5時限	
<p>生物の形態・生理を理解し、これらの知識を芸術作品の制作に役立てることがこの授業の目的です。</p> <p>具体的には、様々な生命現象（生きていることを示す現象）のうち、身近で興味深いと思われるものを対象にして、その発現メカニズムを基礎的なことから説明します。また、生命現象から疑問点を抽出し、疑問点を正しい論理的方法により解決することを試みた研究を紹介します。これらの目的を達成するために、写真や図を用いた授業を行います。</p> <p>生命現象を解析するうえでの考え方と得られた知識を自身の専門に活かすことができるようになることを希望します。</p>			

79	哲学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	鈴木泉	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 2時限	
<p>多くの学生の皆さんは、まだ哲学に触れたことがないと思います。</p> <p>他の学問の場合、社会学や物理学のように「学」の部分を取ってしまうと何を対象とする学問かわかりませんが、哲学の場合にはそれすらわかりません。哲学はその対象によって内容が決まるのではなく、独特に考える考え方のことだからです。と言われてもまだわかりませんね。</p> <p>そこでこの授業では、まだ音楽を聴いたことも絵画を見たこともない人が、音楽や絵画に初めて触れるように、哲学の活動に触れてもらうことを目的とし、芸術にも造詣の深かった20世紀後半のフランスの哲学者ジル・ドゥルーズと共に実際に思考することを通して、哲学の世界へ誘うことを試みます。</p>			

80	西洋建築史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	長谷川香	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 3時限	
<p>本講義では、古代から近世にいたるまで、地形や気候、社会、政治、宗教などと密接に関わりながら形成されてきた西洋（一部オリエントも含む）の建築や都市の歴史について概説します。</p> <p>歴史とは単に過去の事象を暗記する学問ではなく、大きな時間軸のなかでものごとを考える力を養い、現代、そして未来の社会を創っていくための学問です。そのため、各時代の建築の特徴を理解するだけでなく、それぞれの時代の建築に対する評価がどのように移り変わってきたのか、また、それぞれの建築がソフト・ハードの面でどのように変化しながら使い続けられてきたのかを学ぶことで、過去と現代を俯瞰的に捉える視点を培うことを重視しています。</p>			

81	工芸理論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	花井久穂	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 5時限	
<p>「工芸は言葉はいらない」というのは本当でしょうか。とりわけ近代以降、歴史に名を残す工芸家たちの多くは、生涯を通じて文章を書き、名文家としても知られています。それは偶然なのでしょうか。</p> <p>前期（Ⅰ）では「工芸」とその周辺領域（美術・デザイン）をめぐる言説と実践（作品・展覧会）を歴史的に辿り、後期（Ⅱ）では、主に工芸家や批評家たちの「工芸」にまつわる文章が、いったい何を問題にしてきたかを読み解きます。</p> <p>言葉をひとつの道具として使いこなせるよう、毎回、コメントシートで短い文章を書くことを課題としますが、まずは作品や事象がどのように語られているのか、テキストを「読む」姿勢を重視します。</p>			

82	写真映像論		美術学部開設科目
	授業を行う先生	鈴木理策、さわ ひらき、田坂博子、三輪健仁、調文明、小瀬村真美、金井直	
	開講時期・時間	前期 火曜日 4時限	
<p>映像表現について、絵画、彫刻、写真、パフォーマンス等と比較して様々な作例を見て行くことで、映像が持つ特性（動き、時間、演劇性）について考えながら、視覚や動画の原理について学びます。</p> <p>授業は、映像で作品制作を行う作家や映像を専門とする研究者を中心とする多彩なゲスト講師による講義形式となります。</p> <p>授業の最終回では希望者を募り、提出してもらった写真作品について東京国立近代美術館の増田玲氏と鈴木による講評を行います。現代では極めて身近なものとなった映像を「見る／見る」という行為に着目し、改めて考える授業です。</p>			

83	写真史		美術学部開設科目
	授業を行う先生	鈴木理策、新井卓、新畑泰秀、築地正明、岡塚章子、若山満大、神保京子、竹内万里子、小原真史、増田玲、甲斐義明、倉石信乃、綾智佳、伊藤貴弘	
	開講時期・時間	後期 木曜日 4時限	
<p>この授業では写真感材や撮影機材の発達といった技術的側面、時代背景、社会と写真の関係性を軸に、写真というメディアの歴史を扱います。それぞれの時代や分野を研究する15人のゲスト講師による講義形式の授業を通して、多層的な視点から写真の歴史を学び、写真の表現性について考える機会とすることを目的としています。</p> <p>現代では、目的や役割、デジタル画像と印刷物の違いを問わず、カメラで記録された静止画は全て「写真」と呼ばれ、私たちの周りに溢れています。その歴史を辿ることで、地域や時代によって表現意識やものの見方に特徴があることを学び、写真が持つ可能性を改めて考えていきます。</p>			

84	写真表現演習Ⅰ（取手）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	鈴木理策、小塚直斗	
	開講時期・時間	前期・後期 金曜日 1・2時限	
<p>この授業ではアナログ一眼レフカメラでフィルム撮影してもらったものを、写真演習室で現像、および印刷画紙によるプリント制作を行います。</p> <p>今日における写真の経験は、スマホでの撮影や、撮影してすぐにインターネット上で共有されるイメージというものですが、フィルムプロセスを経験することで、物質としてイメージが生まれる過程を技術的に丁寧に学んでいきます。</p> <p>化学である現像作業を学べる環境は今日では貴重なものとなりつつあり、その魅力と驚きに出会ってみたいと思います。扱う薬品の温度管理、分量、時間はきちんと守ることが重要となります。料理教室と似ているかもしれません。</p>			

85	映像演習Ⅰ（取手）（前期）・Ⅱ（取手）（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	新明就太（撮影・編集基礎）（Ⅰ）・山本圭太（映像演出・照明）（Ⅱ）	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 木曜日 1・2時限	
<p>「映像演習Ⅰ・Ⅱ」は、映像技術や理論を学び、作品制作を通じて実践的スキルを身につける授業です。</p> <p>撮影ワークショップや照明ワークショップを通じ、撮影や編集技術の基礎を習得し、映像の組み合わせや場面転換の手法を学びながら、映像表現の理解を深めます。</p> <p>個人制作とグループ制作を組み合わせた演習で制作した作品は、インスタレーションの実践を通じて映像と空間の関係を考察し、アーカイブとしての映像ドキュメンテーションでポートフォリオに活用できる映像記録の基礎を習得します。</p> <p>本授業は多様な表現手法を学び、学生の創造性を引き出し、映像制作の基礎を築くことを目指します。</p> <p>※ 編集は学生自身のPCを使用し、ソフトウェアはAdobe Premiereを使用します。</p>			

86	ドローイング演習（取手）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	小沢剛	
	開講時期・時間	前期 火曜日 1・2時限	
<p>線で描くことは、あらゆる思考、あらゆるジャンルの作品の思考メモであり、表現に至るプロセスだ。頭の中から紙の上に描画材で取り出された時、初めて他者とのコミュニケーション手段ともなりうる。有史以来、人が行って来た線を描くということ、手と目と頭で学んでみる。</p> <p>各回、初めの20分ほどは、線に関する、先人の描いたあらゆるドローイングを参照としたレクチャーを行う。その後数枚のドローイングを描く。</p> <p>モノクロームにこだわり、描画材は鉛筆と墨に限定し、限りなくその可能性を引出したい。</p>			

87	メディア概論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	樽沼範久	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 4時限	
<p>いわゆるメディアもメディア論も、今や飽和状態にあるのかもしれない。しかし、生存環境や制作媒体という意味でのメディア／メディウムは、今も不可欠で重要であることに変わりないでしょう。</p> <p>メディア／メディウムを思考することは、生きることや世界への関係を作り直すことにつながるのではない。そして私たちの心を心の底から、私たちの体を体の底から動かすもの、という意味でのメディア。それもこの授業の、ひとつの大きな主題だと考えています。</p> <p>だからこそ、自分の知っていることよりむしろ、自分が知りたいことにむけて話をしたい。また、この教室自体を次の制作や行為につながるメディアに変容させたいという欲望も、毎年変わりません。</p>			

88	写真表現演習Ⅱ - A		美術学部開設科目
	授業を行う先生	鈴木理策、赤石隆明	
	開講時期・時間	前期 月曜日 3・4時限	
<p>フィルムを利用した化学的な写真表現からデジタルカメラを用いた光学的な写真表現まで、写真センターを利用しながら包括的に写真表現を学ぶ内容です。</p> <p>35ミリフィルムと4×5インチフィルムによる撮影、暗室でのプリント制作、デジタルスキャンによる大判プリント出力などの実習を通して、イメージが現れるプロセスを経験し、「対象をいかにとらえるか」を検討し、「ものの見方」の幅を広げていくことを目的とします。</p> <p>施設の使い方や機材の利用法に重点を置く為、講義時間外に個人的に利用復習する意思が必要です。授業最終日は作品の展示講評会を行い、写真作品を見せるところまで視野を広げていくことを目指します。</p>			

89	写真表現演習Ⅱ -B		美術学部開設科目
	授業を行う先生	鈴木理策、赤石隆明	
	開講時期・時間	後期 月曜日 3・4時限	
<p>写真制作の作業は「撮影」と「その後の作業」の2つに分かれています。この授業では撮影後の写真のセレクトと、選んだ写真をどのように組んでいくかという構成の検討に重点を置き、最終的にはZINEや写真集のダミー制作を行います。</p> <p>15回の講義の中でデザイナー、編集者、プリンティングディレクターをゲスト講師として招き、制作の現場における作業のディテールや観点についてもお話を伺います。</p> <p>授業最終日には完成したZINEや写真集のダミーについて講評会を行い、撮った写真をどのように存在させていくかについて、検討と実践を通して考えていく機会とすることを目的とします。</p>			

90	美術解剖学 - 人とかたち -（前期）（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	岩井治樹	
	開講時期・時間	（前期）（後期） 火曜日 3時限	
<p>私たちはいつから人を描き始めたのでしょうか？</p> <p>洞窟壁画の記録によると少なくとも約4万年前に遡ることができるようです。このように長きに渡り私たちは、人そのものに興味を抱き続け、さまざまな方法で人を科学してきました。</p> <p>この授業では、先人達が探求してきた「人のかたち」の成り立ちについて、解剖、進化、および発生を含めた形態学の観点から学ぶことができます。この学びによって、自身や他者の身体をイメージできるだけではなく、自身の身体を時間的（歴史）・空間的（他の生物との関連）なつながりをもって捉えることができるはずです。さらに、絵画、彫刻、装飾、衣服、装具などのさまざまな造形物を通して「人のかたち」について考察していきたいと思えます。</p> <p>授業は、オンライン形式で行いますので、どのキャンパスからでも受講できます。また人をテーマにした内容ですので美術を学ぶ方だけでなく、音楽を学ぶ方も歓迎いたします。</p> <p>一緒に楽しく「人のかたち」の奥深さについて学んでいきましょう。</p>			

91	空間造形演習Ⅰ		美術学部開設科目
	授業を行う先生	原田愛	
	開講時期・時間	前期 水曜日 1・2時限	
<p>さまざまな空間を作り出す「Scenography（セノグラフィー）」という考え方をもとに、作品づくりに取り組む授業です。</p> <p>舞台美術の視点から、空間造形を構成する4つの要素（1）場（2）身体（3）言葉（4）素材について学びます。これらの要素を実際に考え、実践する課題を通じて、空間造形の多角的な能力を身につけることを目指します。また、舞台芸術や空間芸術の実例を見て、その手法や理論を深く理解することも目標です。</p>			

92	空間造形演習Ⅱ		美術学部開設科目
	授業を行う先生	西尾美也	
	開講時期・時間	後期 金曜日 1・2時限	
<p>この授業では空間造形のメディアとして、身体や装い、テキスタイルを扱います。</p> <p>人と人、人と社会、人と環境の境界について実践的に考察するために、ワークショップやパフォーマンス、アートプロジェクト、屋外インスタレーションの考え方を学びながら、身体と空間、装い（テキスタイル）と空間の関係について、学科を超えた受講者たちがグループワークで議論をしながら制作を進めていきます。</p>			

93	サウンド・アート概論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	西原尚、古川聖	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 2時限	
<p>音そのものについて、幅広く、深く、考えたい。たとえば「聞くこと」と「聴くこと」を私たちは日常的に併用しているが、こうした日常の活動を意識することから始めたい。</p> <p>授業では過去の作品を鑑賞する。この課程は受け身に過ぎず時間ではなく、能動的な体験としたい。そして、音を鳴らすことや使うことに発展できればよい。</p> <p>前期は基本的なテーマ、後期は応用的な内容を予定しているが、柔軟に行き来する。英語使用者の出席が多い場合、簡単な英語で授業を進める場合がある。</p> <p>We want to think practically and deeply about sound itself. For example, we “listen” and “hear” in our daily lives. I would like us to become aware of these everyday activities. In this course, we will view sound works. It is not a passive time, but an active experience. Consequently it will be developed into skills to make and use sounds.</p> <p>The first semester will focus on basic topics, and the second semester will be more applied, but we will move back and forth flexibly.</p> <p>When there are more English friendly attendee, I may use my practical English.</p>			

94	拡張するファッション論		美術学部開設科目
	授業を行う先生	西尾美也、林央子	
	開講時期・時間	後期 月曜日 3時限	
<p>アートプロジェクトに装いを導入する美術家・西尾美也（先端芸術表現科教員）と、書籍『拡張するファッション』（2011）でファッションを多分野にひらく提案を行った林央子による講義です。</p> <p>服そのものだけでなく、服を着る環境やコミュニケーションを含めた、ファッションの対話的・協動的な側面に光をあて、ファッションに関する市民参加型プロジェクトについての国内外の事例を紹介するとともに、授業内でのワークショップを通じて実際に対話としてのファッションを体験します。また、さまざまなアーティスト／デザイナー／研究者などをゲストに招き、先進的な取り組みについて知り、交流する機会を設けます。</p>			

95	倫理学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	櫻井一成	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 2時限	
<p>大学の教養科目の「倫理学」の場合、メタ倫理学や規範倫理学の諸学説を紹介したり、現代社会が直面している倫理的問題を紹介したりするような授業内容が一般的ですが、本授業は「藝大」で行われる倫理学の授業であることを強く意識した内容構成となっています。</p> <p>倫理を「善き生」に関わる事がらと理解した上で、私たちの日々の美的判断や芸術的実践が倫理と深く関わっていることを自覚し、倫理学と美学の交差点で思索を深めていきたいと思えます。たとえば表現の自由やルッキズム、性的モノ化や生の作品化などの問題を取り上げます。</p>			

96	色彩学 集中講義		美術学部開設科目
	授業を行う先生	西尾美也	
	開講時期・時間	通年 集中講義	
<p>色を表現の手段にする者にとって必要なことは、色彩に関する知識の習得だけでなく、色に対する独自の感覚を身につけることだと考えます。そのために、この授業では普段と異なる視点から「色」に向き合う体験型のワークショップを繰り返し行います。</p> <p>ワークショップでは、日比野克彦著『100の指令』（朝日出版社、2003年）のスタイルを踏襲し、「色」をテーマに編纂したオリジナルの指令集「色に関する100の指令」を使用します。</p> <p>3日間の間に、これら100種類の指令に応じていくことで、ひらめきやアイデアを得る身体感覚（色身体、色筋肉、色神経……）を鍛え、受講者それぞれの「色彩学」を形成することを目的としています。</p>			

97	デザイン概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	藤崎圭一郎	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 4時限	
<p>前期の「デザイン概説Ⅰ」はデザインを「倫理」と「批評性」と「創造性」という3つを軸から論じ、「デザインとは何か?」「良いデザインとは何か?」を考えます。デザインとは単に製品や広告の外面を美しく整えるだけのものではありません。では何なのか? それを学生とともに考えます。</p> <p>後期の「デザイン概説Ⅱ」は19～21世紀の近現代デザイン史を論じ。「近代」とは何かを考えます。なぜ機械文明を否定したウィリアム・モリスが近代デザインの祖の一人として語られるのか。パウハウスがなぜ近代デザインの基礎を築いた学校とみなされているのか。デザイン文脈に内在する批評的傾向を明らかにします。</p>			

98	東洋美術史概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	齋藤龍一	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 5時限	
<p>東アジアなかでも中国 2000 年の美術を概観します（中国戦国時代から現代まで）。なお、日本は長い歴史のなかで常に中国と密接な関係にあることから、美術における中国と日本の影響関係についても適宜取り上げます。</p> <p>講義では日本に所蔵される作品を中心に取り上げ、関連する展覧会の情報も紹介します。また講義の一環として大学美術館にて実際に作品を観る予定です（日程は講義で相談の上決定）。</p> <p>中国史をはじめとする世界史を学んでいない学生にもわかるよう、平易な言葉と多くの画像により「中国美術史」を紹介する講義です。東アジアで学ぶ皆さんにとって、目指すものは何であれ、中国美術を知っておくことは無駄ではないと考えています。</p>			

99	日本工芸史概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	片山まび	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 3時限	
<p>日本工芸の歴史を代表的な作例を中心にその歴史を学びます。</p> <p>Ⅰでは主に工芸の原材料や技法、Ⅱでは「和様化」に向かっていった日本工芸の独自性をトピックとします。工芸についての理解を深めるためには、原材料や技法についての知識が必要不可欠ですが、その基本的な知識を身に着けることができます。</p>			

100	建築概論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	中山英之、藤村龍至、樫村美実	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 2時限	
<p>建築とは、土地に建つ構築物であるばかりでなく、歴史の、文化の、環境の、思想の、哲学の、物理の、幾何学の、技術の、そして芸術のなかに、そのありようを常に問われ続ける存在です。よって建築家とは、この広範な領域にわたる営為について、それぞれに異なる個性を発揮しながら思考する存在であり、その答えも建築家の数だけ存在します。</p> <p>授業では、担当教員自らの思考にとどまらず、過去から現在にわたる建築家たちの多様な実践に触れながら、時に建築分野にとどまらない話題を交えつつ、この複雑な世界のなかに線を引いていくことの美しさ、豊かさを、皆さんと共有していきます。</p>			

101	現代芸術論Ⅰ（美学特講A）（前期）・Ⅱ（美学特講B）（後期）		美術学部開設科目
	授業を行う先生	林卓行	
	開講時期・時間	前期（Ⅰ・A）・後期（Ⅱ・B） 月曜日 5時限	
<p>この科目では、20世紀以降の具体的な美術作品を、とくに形式的な側面から分析します。「形式的」というのはさしあたり「感覚でとらえられる」というくらいの意味だと考えてください。</p> <p>授業では、それら作品がわたしたちの体を感じられるという事実から出発して、学生も教員もそれぞれに、それら作品が現実に引き起こすたぐいまれな体験をことばにすることを試みます。それが自身の体験を客観化し、その理解の精度を上げてゆくことになるからです。</p> <p>対象とする作品はシラバスなどで確認してください（年度によって変わります）。</p> <p>芸術学科の学生はこの科目を「美学特講」として履修することに留意してください。</p>			

102	西洋美術史概説Ⅰ		美術学部開設科目
	授業を行う先生	深田麻里亜	
	開講時期・時間	前期 火曜日 3時限	
<p>古代地中海世界、古代ギリシアの時代から、中世までの美術史を概観する授業です。</p> <p>授業の対象となる時代の作品は、科学が発展し産業革命が起きる近代よりもずっと前に制作されたものですが、じっくり鑑賞すると、実に想像力に満ち、様々な工夫が凝らされていることに気づくことでしょう。</p> <p>各地でどのような作品が、どのようにつくられたのか、歴史的・思想的背景とあわせて見ていきます。古代神話やキリスト教など、西洋美術の伝統的テーマの展開についても確認します。こうした学びを通じ、美術史の流れをつかみ、また、後世に連なる伝統についても理解を深めることを目指します。</p>			

103	西洋美術史概説Ⅱ		美術学部開設科目
	授業を行う先生	越川倫明	
	開講時期・時間	後期 火曜日 3時限	
<p>西洋美術の流れを古代までさかのぼって、おおよそ 17 世紀のバロック時代まで概観する授業です。</p> <p>いささかオールド・ファッションな講義とみえるかもしれませんが、決して中学・高校の歴史のような「暗記もの」ではなく、美術表現の変化の本質を理解してもらうことに主眼をおいて、極力わかりやすく紹介したいと思います。</p> <p>もちろん西洋美術の展開は日本の美術の展開とは大きく異なっていますが、日本は近代化の過程の中で、ある意味で西洋美術の発展のロジックを自国の美術の一部に取り込んできたところがあります。鑑賞経験の背景知識として、あるいは遠い過去の遺産から現在を考えるヒントを得る機会として、学んでもらえればと思います。</p> <p>後期のⅡでは、ルネサンスからバロック期を扱います。</p>			

104	日本美術史概説Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)		美術学部開設科目
	授業を行う先生	松田誠一郎	
	開講時期・時間	前期(Ⅰ)・後期(Ⅱ) 水曜日 4時限	
<p>奈良・京都などの寺院に伝わる古代の仏像を取り上げ、日本美術史の一端に触れます。</p> <p>作品を理解するための基礎知識や視点・方法を学びます。</p> <p>飛鳥時代(538-710)から平安時代(784-1185)までの仏像の名品を時代順に取り上げ、その技法や表現をくわしく講義します。</p> <p>あわせて、作品に関連する原典史料を講読し、学説を紹介しながら、各作品の歴史的な位置や制作背景などを学びます。</p> <p>日本の古代美術は、中国や朝鮮半島からの強い影響のもとに展開しました。その一方、残された作品には、随所に日本独特の造形表現や制作技法を見出すことができます。</p> <p>日本古代の仏像には、日本人の信仰や審美眼が反映されています。そこに認められる「選択」と「変容」を作品に即して学ぶことを通して、日本美術の本質に少しでも触れることができれば、と思います。</p> <p>講義はオンラインで、つぎの教科書にそって進めます。</p> <p>水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐりー仏像の見かたー』(岩波ジュニア新書)</p>			

105	美学史概説Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)		美術学部開設科目
	授業を行う先生	川瀬智之	
	開講時期・時間	前期(Ⅰ)・後期(Ⅱ) 金曜日 4時限	
<p>古代以来、人々は、美しさや、絵画や文学などの芸術について考え続けてきました。そのようにして生みだされた思想は美学と呼ばれ、芸術作品の制作や鑑賞に対しても大きな影響を及ぼしてきました。</p> <p>この授業では、古代ギリシアから近現代のドイツやフランス、日本に至る代表的な哲学者、美学者、芸術家の美や芸術についての思想を解説するとともに、それらの思想と、特に近現代の芸術作品との関連についても論じていきます。</p> <p>芸術は、何らかの世界観や人間観を背景として持っています。この授業によって、世界と人間はどのような関係にあるのか、それと芸術はどのように関わっているのかについて、様々な考え方を理解できるようになります。</p>			

リベラルアーツガイド 2025 アンケートのお願い

本ガイドでは、藝大らしいさまざまな芸術や文化の基礎に触れ、両学部や院生と一緒に学びあう「教養」「共通」科目を担当する先生が、それぞれの授業のポイントを紹介しています。

藝大での学びの充実化のため、本ガイドを含め、「教養」「共通」科目についてのアンケートをお願いします。

スマートフォンやタブレットから回答できますので、掲示しているQRコードを読み取って回答してください。



PDF版をご覧の方は、以下のURLにリンクを埋め込んでいます。

そこから回答できます。

ご協力をお願いします。

【アンケートへクリック&タップ】
<https://forms.gle/Prj8sCSbQhoQuExA9>

キュレーション教育研究センター開設科目

106	現代美術キュレーション概論		キュレーション教育研究センター開設科目
	授業を行う先生	難波祐子、李美那、熊澤弘、鷲田めろ、服部浩之、熊倉純子、今村有策、毛利嘉孝、荒木夏実、平論一郎、相馬千秋 ほか	
	開講時期・時間	後期 木曜日 6時限	
<p>現代美術を取り巻くキュレーションは、近年の美術表現の領域横断化や、時代の変化に伴う美術館や展覧会のあり方の変遷によって、大きくその姿を変えています。</p> <p>本授業では、キュレーションの現在を中心に、過去と未来にも眼を向け、その多様なあり方と可能性を紹介し、これからのキュレーションについて思考・実践していくための手がかりとします。</p> <p>毎回、さまざまな専門分野から講師を招き、オムニバス形式の授業でキュレーションを多角的な視点から読み解き、これからのキュレーションのあり方についてディスカッションしていきます。</p>			

107	社会包摂のためのアートプロジェクト： 音楽×身体表現×福祉Ⅰ(理論編)		キュレーション教育研究センター開設科目
	授業を行う先生	箕口一美、酒井雅代、山崎朋	
	開講時期・時間	後期 集中講義	
<p>この授業では、クラシック音楽と身体表現を融合させた体験型プログラムを実践するプロジェクト「ムジタンツ」の活動を参考事例としながら、福祉領域と連携して行うアートプロジェクトの実例について学びます。</p> <p>社会包摂のための芸術実践、特に自治体や福祉施設等と連携して行うアートプロジェクトの企画・運営について、背景理論や先行事例を踏まえ、芸術実践と社会課題を結ぶ企画立案について協働的に考える授業です。</p> <p>実演家、研究者、福祉領域専門スタッフ等をゲストに招き、多角的な視点で、アートプロジェクトを具現化するプロセスや意義について共に考えます。</p>			

108	演習：アートプロジェクト したまちフィールドワーク		キュレーション教育研究センター開設科目
	授業を行う先生	熊倉純子、吉田武司、長尾聡子	
	開講時期・時間	通年 集中講義	
<p>まちなかで行う市民参加型アートプロジェクトの実践現場を通して、芸術と市民社会の関わり方を考えます。</p> <p>東京藝術大学千住キャンパスが位置する足立区のほか、東京の下町エリアを主なフィールドとして、まちで行われる芸術文化プロジェクトの運営に携わります。</p> <p>本授業では、アーティスト、行政、NPOなど、芸術の専門家・非専門家を問わず多様な担い手とともに領域横断的な表現を扱うことで、同時代の社会と関わりながら、共創的な場を作ることを可能にするアーツマネジメントの手法を実践的に学びます。</p>			

109	展覧会設計演習 キュレーション教育研究センター開設科目	
	授業を行う先生	難波祐子
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>小規模な展覧会・アートプロジェクトをまちなかで実施することを念頭に企画から制作、運営までのプロセスを実践的に学びます。</p> <p>都市空間に介入しながら、通常の美術館での展覧会とは異なる手法で、アートと実社会を結びつけるキュレーションについて東京藝術大学の学生と社会人が共に主体的に思考・実験していく機会とします。授業では展覧会見学や街歩きも交えながら、展覧会の企画制作に関する必要な知識を学び、実際に有楽町のまちなかで小規模な展覧会・アートプロジェクトを開催します。</p> <p>本講座は5月下旬から11月初旬にかけて15回の演習授業を基本とし、10月中旬～下旬に1週間程度の展覧会開催を予定しています。</p>		

110	芸術環境創造論 1 キュレーション教育研究センター開設科目	
	授業を行う先生	熊倉純子、黒川廣子、佐藤悠、Justin Jesty、西尾咲子、韓河羅、日比野克彦、松下計
	開講時期・時間	前期 集中講義
<p>本授業では、アーティストや演奏家だけでなく、芸術分野の専門性を活かしたキャリアやそのために必要な知識に触れることを目的としています。芸術大学での学びをいかに社会と接続させることができるのか、またそのような進路について関心のある・悩んでいる学生に受講していただきたいです。</p> <p>「芸術環境創造論1」として、そもそも今日の芸術とは何なのかという問いを出発点に、モノとしての価値に留まらない芸術の社会的な価値について検討します。そして、学内外の講師を交えたディスカッションやワークショップを通じて、時代に合わせ刻々と拡大する芸術の範疇をいかに柔軟に社会と接続することができるのかを考えます。</p>		

未来創造継承センター開設科目

111	アート&リサーチ演習 「調査を用いるアート」と「アートを用いる調査」 未来創造継承センター開設科目	
	授業を行う先生	毛利嘉孝、幅谷和真
	開講時期・時間	通年 木曜日 6時限
<p>本授業は、近年増加している「調査を用いたアート (Research-Based Art)」と「アートを用いた調査 (Art-Based Research)」の交錯点を、外部のゲスト講師によるさまざまな取り組みの実例から学ぶとともに、受講者自身も特定のテーマに沿って実習を行います。</p> <p>特に社会学、文化人類学、文化研究、メディア研究、アーカイブ研究などの理論と調査をベースにしながら、都市やエコロジー、福祉や教育、テクノロジーや医療などのテーマに視聴覚、映像メディア、展示を用いた調査やその成果の発表について学習します。</p>		

112	創造と継承とアーカイブ – Archives, Inheritance, and Creation of the Arts 領域横断的思考実践 – Cross-disciplinary Platform 未来創造継承センター開設科目	
	授業を行う先生	平論一郎、李美那
	開講時期・時間	通年 水曜日 6時限
<p>年間15回、アーティストや研究者をゲストに招いて実施するオンライン授業です。学部・院、専攻を問わず、誰でも受講できます。美術・音楽・歴史・キュレーション等々、アートを取り巻くさまざまな話題を取り上げながら、知的好奇心のタネを縦横無尽に発掘し、受講生も含めてディスカッションする場を提供します。</p> <p>東京藝大の多様な先生方や、学外も含め、多分野の専門家を招いて話題提供します。アートが生まれる社会の幅広い知を、自ら読み解く力を鍛えることを目指し、待ちではなく攻めの姿勢で臨んでください！</p> <p>開講時期・時間：通年 水曜 6限 ※不規則日開講 18:00 ~ 19:30</p>		

芸術未来研究場開設科目

113	ケア×フィールドワーク実践演習 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	渡邊五大
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>上野公園周辺地域のフィールドワークを行い、地域の課題等をリサーチし、ケアとアートの接点を探っていきます。それを踏まえ、ケアや社会貢献の活動につながる企画・制作をグループで協働して立案し、アートを手立てとし、社会との架け橋を創っていきます。</p> <p>初回授業でリサーチ対象となる6つのテーマを共有した後、グループに分かれ、以降はグループワーク中心となります。</p> <p>各テーマごとにフィールドワークやリサーチを行い課題・問題点を探り、その解決策を見つけ出すことを目的としています。リサーチの進捗を共有する中間発表会を経て、最終授業では成果発表会としてグループワークの成果物を展示し、プレゼンテーションを行います。</p>		

114	DOOR プログラム実践演習 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	菊地良太
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>多様な人々がともに過ごす場をつくることを目指し、作品・ワークショップ等の制作や実践を行います。また社会の中で見過ごされがちな事象に目を向けてきたアーティストの眼差しに触れ、学びを深めていきます。具体的には、「明後日新聞社文化事業部」と「センサリールームプロジェクト」に参加します。</p> <p>日比野克彦が長年携わってきた「明後日新聞社文化事業部」では社会の中における芸術の機能性・多様性について学び、「センサリールームプロジェクト」では、感覚過敏の人が居心地良く試合を観戦する場づくりを行います。この授業はグループワークが中心となり、実際の地域社会での体験から、作品制作を行います。履修者が授業に主体的、積極的に取り組むことを期待しています。</p>		

115	ケア原論 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	伊藤達矢、藤原旅人
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>福祉の歴史やケアの基礎的な考えを知り、わたしたちを取り巻く環境が抱える問題について授業を通し理解を深めていきます。また、ケアとアートの両領域における創造的な取り組みを参照することで、現代社会におけるケアとアートの接点について考えていきます。</p> <p>ケア概念を従来の狭義のケアの意味だけでなく、アートを媒介としてケアをより広義で多角的な視点で捉えていくことを目的とします。</p> <p>授業は、オンライン上で行います。「ケア」や「福祉」をテーマにオムニバス形式の授業で、誰もが排除されない社会を志向し、創造されるべき成熟した共生社会を考察し、実践に繋がる思考を編んでいくことを目指します。</p>		

116	人間形成学総論 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	渡邊祐子
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>人間らしさを考えるうえで、「学び」や「教育」というテーマは多くの手がかりを与えてくれます。</p> <p>この授業では、学びや教育にまつわる課題を探求し、学力、思考、対話といった人間形成に深く関わるテーマへの理解を深めていくことがねらいです。その過程で、「人間とはなにか？」について履修者が自分なりの解釈を広げて、自己理解・他者理解を一層深めていくことを期待します。さらに、担当教員の教育現場での経験をもとに、美術館の教育実践を紹介し、授業内で行うワークショップやディスカッションなどを通じて、実学的な学びの習得を目指します。</p> <p>この科目は、教育学の知識がなくても理解できるよう設計されています。この授業はオンラインで開催します。前提知識は必要ありませんが、出席と課題提出は基本となります。</p>		

117	ダイバーシティ実践論 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	伊藤達矢、藤原旅人
	開講時期・時間	通年 月曜日 6時限
<p>本授業は現代社会におけるダイバーシティ（多様性）を考えることを目的としています。</p> <p>生きづらさを抱える当事者や、当事者と関わりながら活動を行っている実践者・表現者や、ダイバーシティをより広い視点で捉え直す様々な領域の専門家を毎週ゲスト講師にお迎えし、オムニバス形式の授業を行います。</p> <p>ダイバーシティの「今」のあり方を、ゲスト講師の講義を参照しながら、模索していきます。授業はオンライン上で行います。授業後半には、質疑応答の時間を設けており、ゲスト講師との活発な議論や対話が展開することを期待します。</p> <p>これからの社会で創造されるべき共生社会を考察し、実践につながる思考を編んでいくことを目指します。</p>		

118	ARTs × SDGs プラクティス 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	伊藤達矢、田中一平
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>「SDGs とアート」をテーマに扱う授業です。SDGs の考え方を多角的により深く知るために、様々な分野の第一線で活動をしている実践者をゲスト講師に招きます。</p> <p>SDGs が掲げる「持続可能な社会を実現する」ためには、どんな社会課題があるのかを、ゲスト講師のレクチャーを指針に履修生が自ら発見をし、アートの可能性を交えながら創造的な解決策を共に考えていきます。芸術分野に限らない、他分野の実践例を知ることにより、アーティストとしての視野を広げることを目的としています。</p> <p>本授業はオンラインが基本となる授業で、6回程度の個人制作の課題を出します。DOOR 開設科目の「ダイバーシティ実践論」「ケア原論」も合わせて履修されることを推奨します。</p>		

119	ドキュメンタリー映像演習 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	森内康博
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>本授業では、映像制作・ドキュメンタリーの技法を基礎から学び、テーマに沿ってグループで短編映画の制作を行います。</p> <p>情報通信技術の高度化によるメディア環境の変化とともに情報やメディアの扱い方も多様化してきています。映像に触れることが初めての方でも映像制作・ドキュメンタリーの基礎やインタビューの技法や心得を学び、基本的な映像メディアを扱えることを目標としています。</p> <p>毎年、講師が設定したロケーションや演出の制約（or ルール or 条件）をもとに、ドキュメンタリーの企画・構成からグループワークが始まります。そして、フィールドワークやリサーチを進めたのち、実際の映像撮影や編集作業を行います。制作のプロセスを通して、映像のリテラシーと映像メディアを介した他者への関わり方、振る舞い方を身に付けることを目指します。</p>		

120	ケア×ソーシャリー・エンゲイジド・アート実践論 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	奥山理子
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>本地域社会や住民とともに制作や活動を実施するソーシャリー・エンゲイジド・アート（SEA）について、日本のアートプロジェクトの事例にも触れつつ、その歴史を紐解いていきます。また、ケアと関わり深い事例を掘り下げながら、福祉施設や地域におけるアートを介したコミュニケーションについて探求していきます。</p> <p>本授業はオンラインが基本となる授業です。いくつかの授業で、SEA の実践者をゲスト講師としてお呼びし、その方々に講義を行っていただきます。そして、そこから得た学びを自分のフィールドや自らが考える社会の問題点や課題点に引き寄せ、どのように SEA を展開していけばいいかを授業の中で考えていきます。</p>		

東京藝術大学の体育授業

121	アクセス実践講座 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	小牟田悠介
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>具体的な社会課題に関わる状況・活動を知ることにより、文化資源や美術館にアクセスすることが難しい人が利用するために必要な支援を考えます。講座を通してそれぞれの創作活動を届ける相手や社会について考えるきっかけとなることを期待しています。</p> <p>講座のテーマとして、障害者差別解消法、障害の社会モデル、合理的配慮、ろう文化、多文化共生、子どもたちの貧困、超高齢社会、認知症といった様々な社会課題や共生社会を考える上で知っておきたい事柄を扱います。専門家のレクチャーと、様々な世代が活動する「とびラー」と共に意見交換をしながら講座は進んでいきます。</p> <p>希望者は必ず、初回オリエンテーション授業に出席するようにしてください。</p>		

122	美術鑑賞実践演習 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	小牟田悠介
	開講時期・時間	通年 集中講義
<p>対話を通して作品を楽しみ、鑑賞を深める活動について学びます。鑑賞者が自由な発想で、主体的に鑑賞できる機会をつくるにはどうしたらよいか、「鑑賞の場を作る側」の視点を持ちながら考えていきます。</p> <p>授業は、Visual Thinking Strategies (対話型鑑賞) を全8回で学びます。様々な世代が活動するアート・コミュニケータ (愛称「とびラー」) と一緒にワークショップ形式で進めていきます。</p> <p>希望者は必ず、初回オリエンテーション授業に出席するようにしてください。</p>		

123	アートプロジェクト演習 芸術未来研究場開設科目	
	授業を行う先生	中村政人、中西忍、栗原良彰、渥美雅史
	開講時期・時間	通年 木曜日 6時限
<p>この授業では、上野校地や街の空間資源を活用しグループで小規模なアートプロジェクトを企画し実施します。中村政人教授の独自のPDCAサイクル (Plan/Do/Critic/Awareness) を用いて計画を行い、批評的視点で空間資源を読み解き、アートプロジェクトを立案する方法を学びます。また、社会の変化に伴い求められるアートの役割を理解し、アートプロジェクトの計画実行を通して学ぶことで、実践的スキルを習得します。これにより、アーティスト、キュレーター、マネージャー、アートコーディネーター、インストラクター等、アートを仕事として担い社会で活躍できる力を養います。</p> <p>アート×ビジネス講座では、第一線のアート関係者を招きアート事業における経済活動についての講義を展開します。創作活動を経済活動に結び付ける実践的な理論を学びます。</p>		

『藝大体育』は、運動・スポーツが本来持っている面白さや楽しさを知り、自らのからだを動かすことで気づく心の変容を実感することに重きを置いています。同時に、身体活動は心身を健やかに保つために不可欠な要素であることを理解し、健康や体力に関する知識や実践にも興味を持ってもらえることを期待しています。

さらに様々な専攻、学年の学生と共に学ぶことから、いろいろな情報や価値観、刺激を得られる数少ない場のひとつとなるはずです。

124	体育Ⅰ・Ⅱ 美術学部開設科目	
	実施場所	上野キャンパス体育館、テニスコート
	「球技」(+体操、ラート、ストレッチ)	
授業を行う先生	吉武誠司(月)、細川幸子(木)、亀田まゆ子(金)	
開講時期・時間	通年 月曜日 4、5時限、木曜日 3時限、金曜日 3、4時限	
<p>主としてスポーツ種目を行うクラスです。受講者の人数や気候等を考慮しながら同種目を3、4週ずつ段階的に行っていきます。その他、からだほぐし、姿勢改善、体力アップのためのストレッチやエクササイズ。体操では、なわやフープ、Gボールなどの用具を使って巧みな動作に挑戦(脳トレ)します。ラートは、ドイツ発祥の2連の鉄の輪に乗って回るスポーツです。希望者は、その技の習得練習のために続けて実施することもできます。</p> <p>いずれのクラスでもうまく出来ること、得意さは一切求めません。“とりあえずやってみる”で新しい自分の発見があるかもしれません。</p>		
「剣道」		
授業を行う先生	数馬広二	
開講時期・時間	通年 水曜日 3時限、4時限	
<p>剣道の魅力は、目付け、姿勢、呼吸法などの自分の内面を調えることで、自分のところとからだの調和を知ることができる点にあります。授業では、はじめに剣道着、袴、帯を着用しハラ(腹)を意識しつつ、竹刀・木刀・刀(模擬刀)の振り方(素振り)を学び、次にお相手とペアで稽古する段階では、礼に始まり、竹刀を構え合い、人と人との空間認識を向上させます。剣道具を着用して後は、相手の動きを予見し、相手の打ちをかわし、気(発声)・剣(打突)・体(踏み込み)一致の「一本」を目指します。</p> <p>この剣道の授業は、皆さんが創造や演奏、研究活動に必要な身体をつくり、社会で活動していくための身体と心が調和する方法を見つける出すことを目指しています。希望者は剣道一級と初段の審査に挑戦することもできます。(7月下旬・2月)</p>		
「ダンス」		
授業を行う先生	屋代滯(月)、細川幸子(木)	
開講時期・時間	通年 月曜日 4時限、木曜日 4時限	
<p>ダンスのジャンルは様々です。“うまく”よりも音楽に乗ってからだを動かすことを第一のねらいとしています。簡単なステップから受講者のレベルや希望に添って進めていきます。ダンス経験の有無に関係なく受講できます。その他、ストレッチやピラティスのようなからだを整えること(ボディワーク)も合わせて行います。</p>		

→ 体育の授業内容は次のページも続きます

「芸術とからだ、うごき～丹田と脱力、姿勢”構造力”～」	
授業を行う先生	林久仁則
開講時期・時間	通年 木曜日 3時限
<p>「身体を使いこなす」力を養います。身体の動きは「構造力」を活し、無駄な力を使わず身体の内なる繋がりを意識すると自由で効果的な動きが可能になります。これを、知識と実践を通して身に付けていきます。また、姿勢、呼吸、歩き方に焦点を当て日常生活で即実践できる身体の使い方を習得します。</p> <p>授業終盤には、各自の専門性を実際に身体性と照合して表現（演奏、歌、作品紹介）してもらい、その背景にある哲学を互いに引き出し合い、受講生同士の学び、気づき、成長に繋げていきます。実践を通じて自分に向き合い、心身が調和した状態で最適なパフォーマンスを発揮する。これが授業で身につけたい価値であり第一の目標です。</p>	
「アーティストのための姿勢と動きづくり」	
授業を行う先生	亀田まゆ子
開講時期・時間	通年 火曜日 3時限
<p>自分では気づかないうちに身に付いてしまった姿勢の偏りや動き方のクセに気づき、それをリセットすることの重要性を理解し、本来あるべき姿勢と動作（関節の動かし方）を覚えることをねらいとします。</p> <p>最終的には、自分自身で自らのコンディショニングを整えられるようになること“セルフコンディショニング”が出来ることを目指し、長時間におよぶ練習や制作にも自らで対処できるすべを身に付けます。</p>	
「からだコンディショニングとレクスポーツ」	
授業を行う先生	亀田まゆ子
開講時期・時間	通年 火曜日 4時限
<p>「球技」クラスで行う種目より比較的簡単でケガのリスクも少ないレクリエーションスポーツです。スポーツの実践と同時に、姿勢を整えることから始めるコンディショニング（からだの調子を整えること）の知識と実践法について学びます。</p>	

リベラルアーツガイド 2025 アンケートのお願い

本ガイドでは、藝大らしいさまざまな芸術や文化の基礎に触れ、両学部や院生と一緒に学びあう「教養」「共通」科目を担当する先生が、それぞれの授業のポイントを紹介しています。

藝大での学びの充実化のため、本ガイドを含め、「教養」「共通」科目についてのアンケートをお願いします。スマートフォンやタブレットから回答できますので、掲示しているQRコードを読み取って回答してください。



PDF版をご覧の方は、以下のURLにリンクを埋め込んでいます。そこから回答できます。ご協力をお願いします。

【アンケートへクリック&タップ】
<https://forms.gle/Prj8sCSbQhoQuExA9>

毎年、新学期とともに発行する「ガイド」も4年目となりました。2025年版は、掲載範囲を拡大、両学部生が学べる授業、参加の門戸を開いている授業を網羅した、「ガイド」になりました。

藝大が持つ多彩な専門性は、一方で、芸術や文化を中心とした豊かな学びに触れられる多彩な機会があるということでもあります。本学には、学びたい、体験したい授業が、専門以外にもたくさんあって、それが自身の実になっているという話は、卒業生からも在校生からも多く聞きます。

制作や表現をするためにも、構想し、実現するための術を身につけておきたい… 藝大生という、社会からも期待度が高い存在にとって、芸術や文化を考え、語り、活動することが、いやが応にも求められる中、自分を持つためにも、これら豊富に選択でき、時代とともにアップデートを続ける授業群は糧になることでしょう。

「ガイド」があって、学びたい授業をみつけることができたという、うれしい感想もいただきます。より掲載授業が広がった2025年版が、みなさんの一生に一度の学びの機会に役立つことを期待しております。

東京藝術大学教養教育センター コーディネーター

岡田智博

藝大リベラルアーツガイド 2025
～ 両学部生と一緒に学べる科目ガイド
GEIDAI LIBERAL ARTS GUIDE 2025

令和7年(2025年)3月31日

発行者:東京藝術大学教養教育センター
東京都台東区上野公園12-8
電話番号 050-5525-2483

クリエイティブディレクション・編集:
岡田智博 東京藝術大学教養教育センター

デザイン:木下真彩

© 2025 Liberal Arts Center, Tokyo University of the Arts

本ガイドで掲載した各科目の履修内容の詳細については、大学WEBサイト上にあるシラバスを参照してください。

